

津波被災地の集団移転 に関するアンケート集計結果



福島県浪江町

調査概要

➤ 調査目的

この調査は津波で被災された方々に対して現段階での帰還の意思を確認することにより、国からの復興交付金を活用した防災集団移転促進事業および災害公営住宅整備事業を実施する上での基礎資料として用いるため実施しました。

➤ 調査対象

津波により被害を受けた世帯主を対象として実施。

なお、津波により世帯主がお亡くなりになった世帯については、新しい世帯主に送付しました。

➤ 調査方法・時期

郵送により配布、回収

(平成24年12月中旬発送、平成25年1月初旬回収)

➤ 配布数・回収数

配布数	回収数	回収率
599	347	57.9%

➤ その他

今後、事業を円滑に実施する上で氏名の記載をお願いしました。

調査対象行政区

問1 震災発生時のお住まいはどちらですか？

地域	配付数	回収数	回収率
北幾世橋	12	4(6)	33.3%
北棚塩	7	7(7)	100.0%
南棚塩	99	68(77)	68.7%
請戸	393	213(235)	54.2%
中浜	38	31(34)	81.6%
両竹	50	24(25)	48.0%
合計	599	347(384)	57.9%

()内は、世帯によって回答が異なったもの。

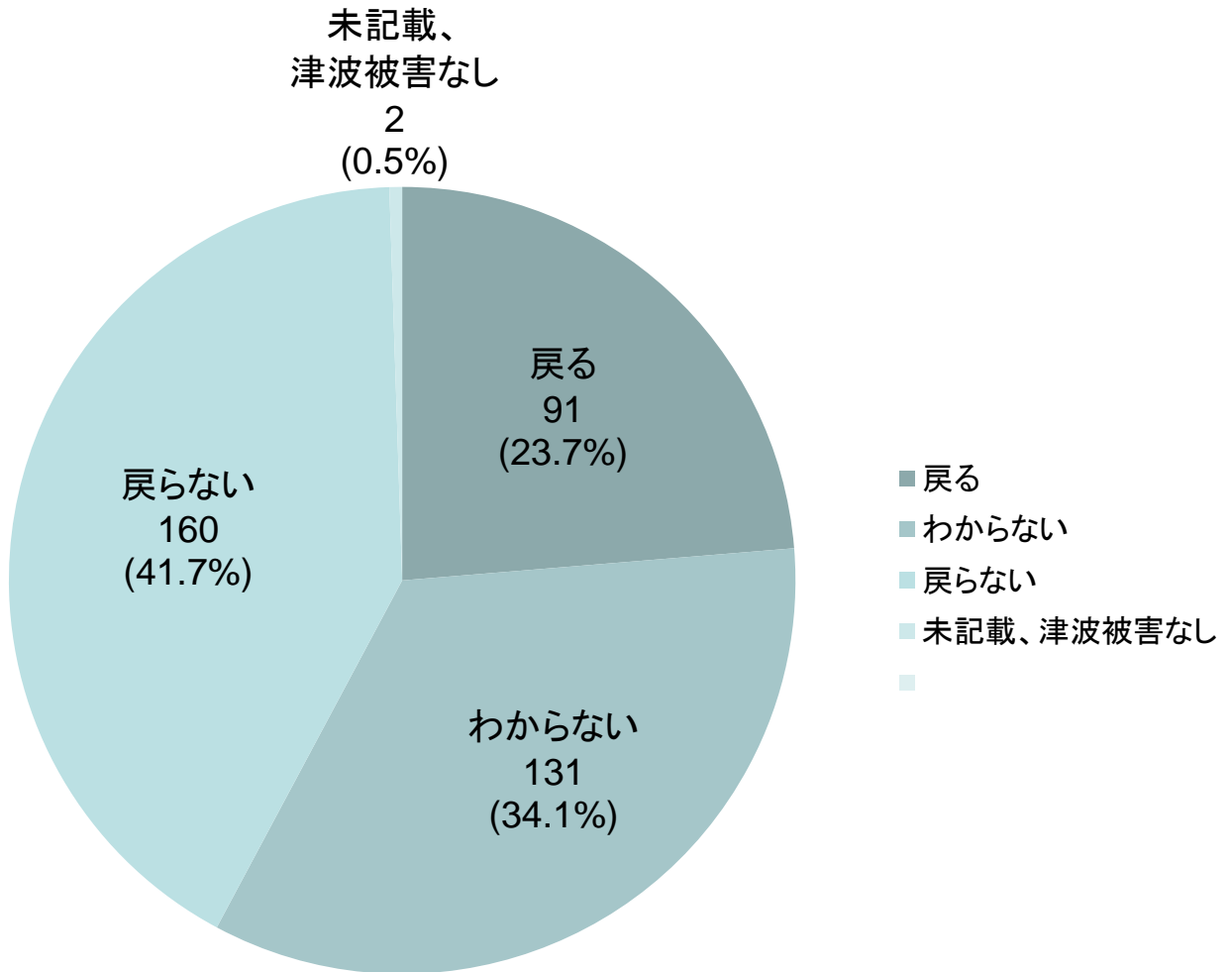
【例】

世帯①は帰ると希望したが、世帯②は帰らないと回答した場合には、2世帯回答となる。

両竹・中浜地区の方々については、住所から集計したものになっており実際の行政区内における世帯数とは異なっております。
各設問におけるグラフ表記についても住所単位で集計したのものになっておりますのでご注意ください。

帰町の意味 (1)

問2 帰町することが可能となった場合、浪江町に戻りますか？ 回答数=384

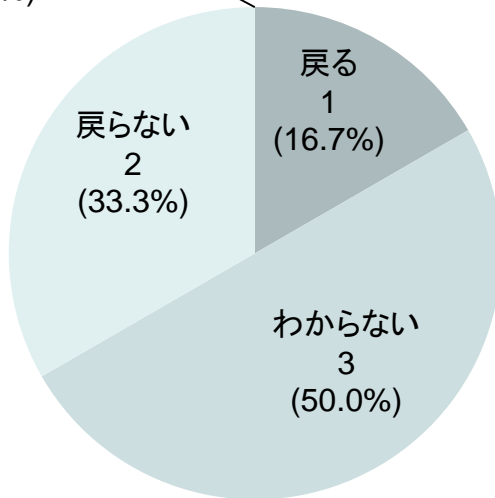


帰町の意味 (2)

問2-1 帰町することが可能となった場合、浪江町に戻りますか？ <北幾世橋>

未記載、
津波被害なし
0
(0.0%)

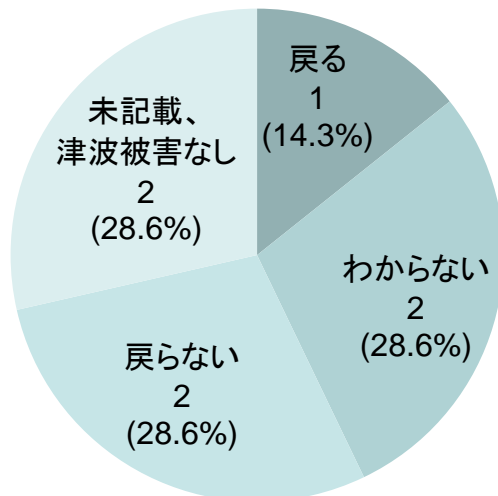
北幾世橋(回答数=6)



- 戻る
- わからない
- 戻らない
- 未記載、津波被害なし

問2-2 帰町することが可能となった場合、浪江町に戻りますか？ <北棚塩>

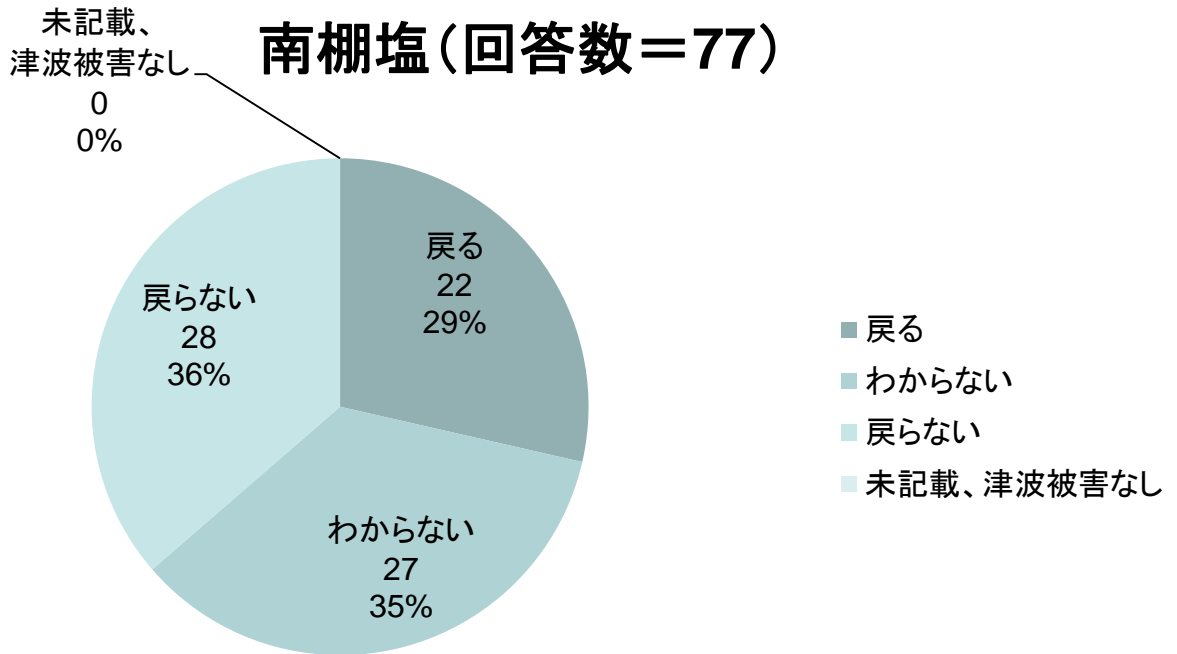
北棚塩(回答数=7)



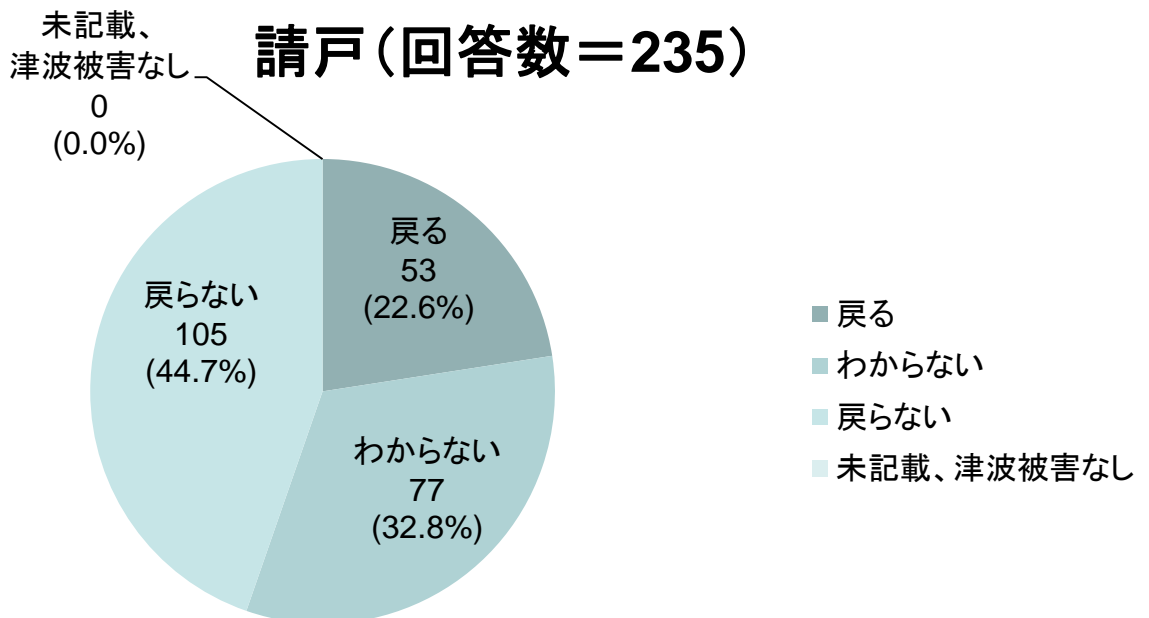
- 戻る
- わからない
- 戻らない
- 未記載、津波被害なし

帰町の意味 (3)

問2-3 帰町することが可能となった場合、浪江町に戻りますか？ <南棚塩>

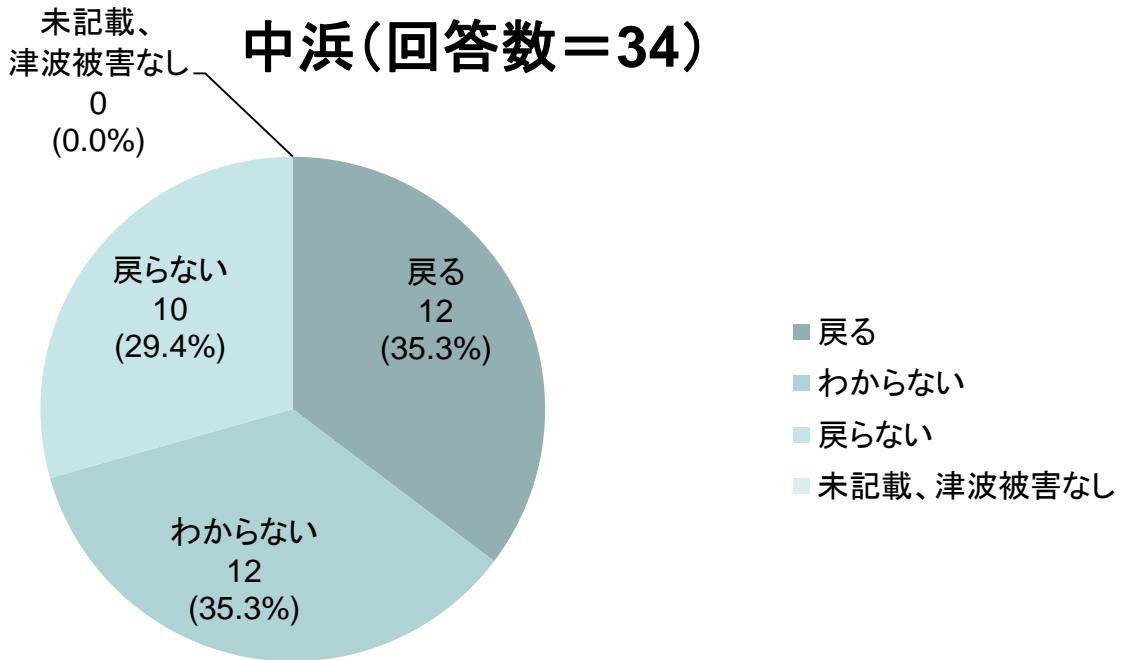


問2-4 帰町することが可能となった場合、浪江町に戻りますか？ <請戸>

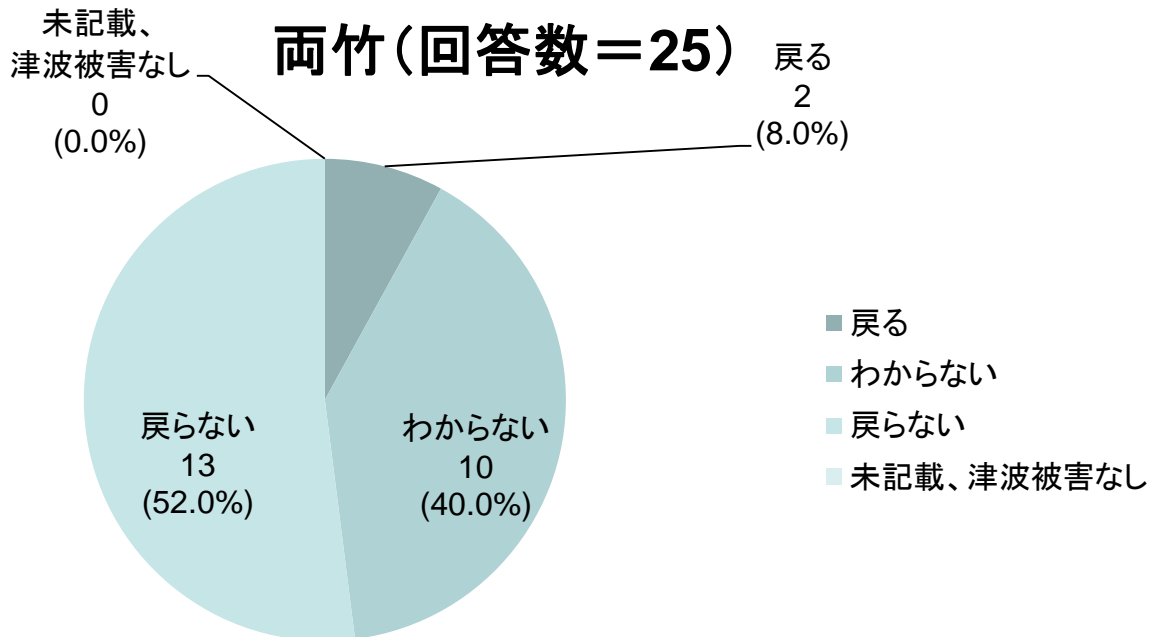


帰町の意味 (4)

問2-5 帰町することが可能となった場合、浪江町に戻りますか？ <中浜>



問2-6 帰町することが可能となった場合、浪江町に戻りますか？ <両竹>

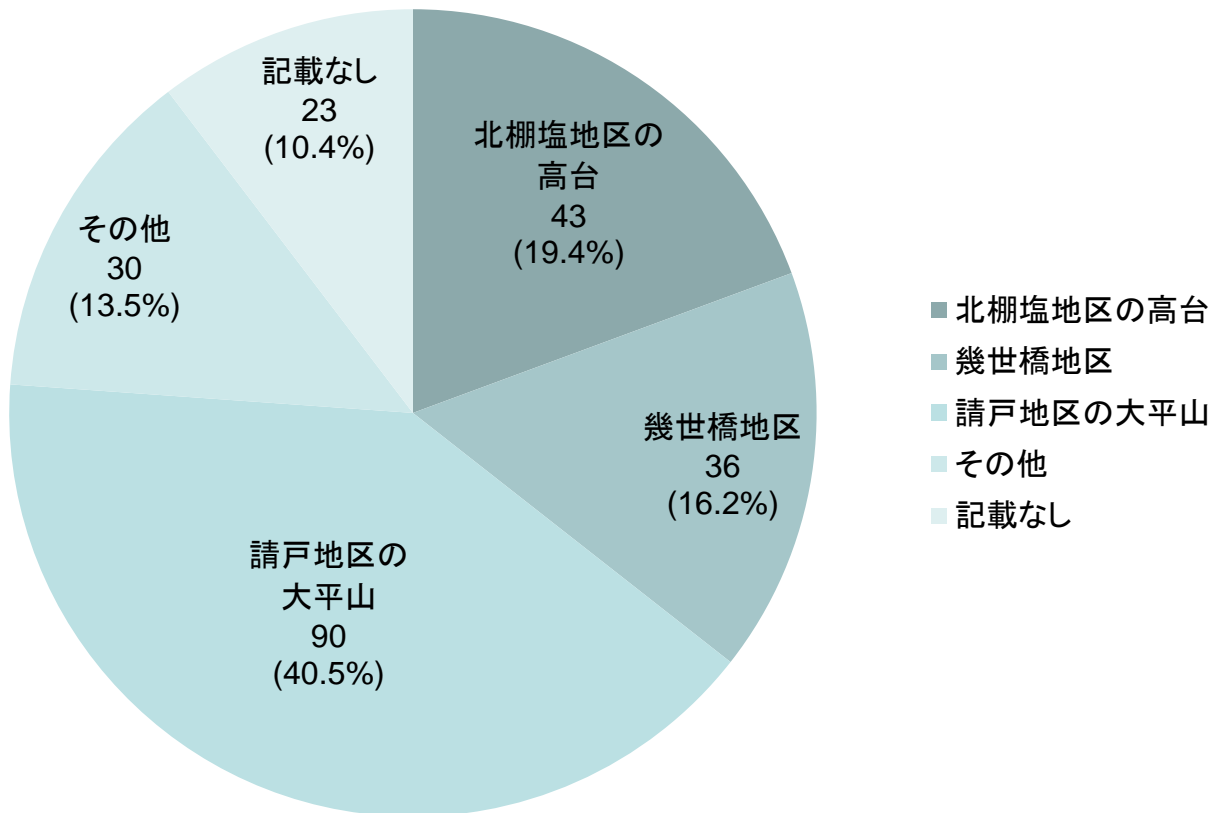


帰町した場合の居住先(1)

※浪江町への帰還について「戻る」または「わからない」と回答したものを集計

問3-1 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？

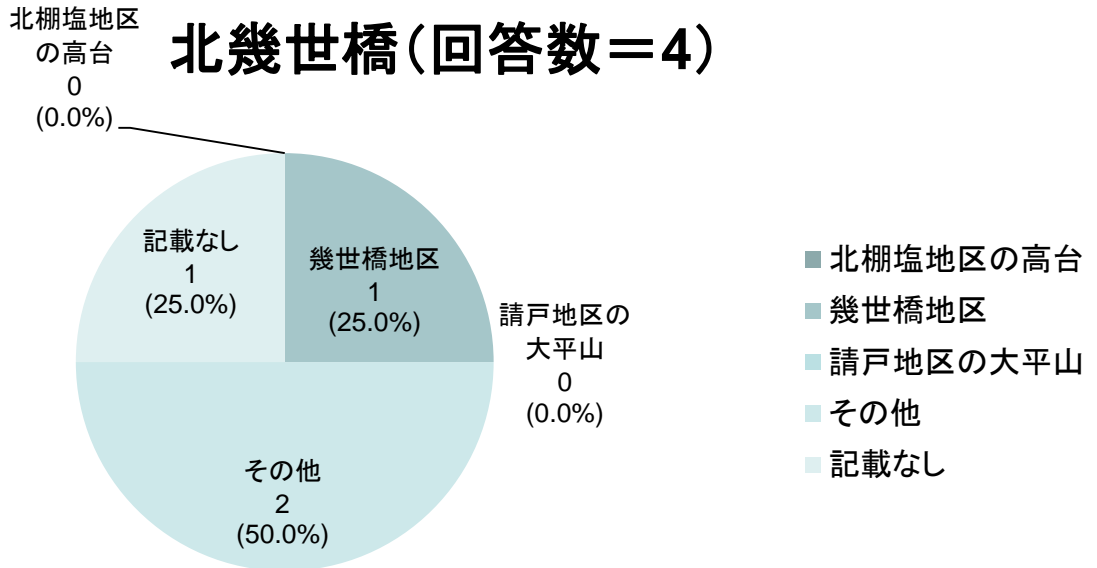
合計(回答数=222)



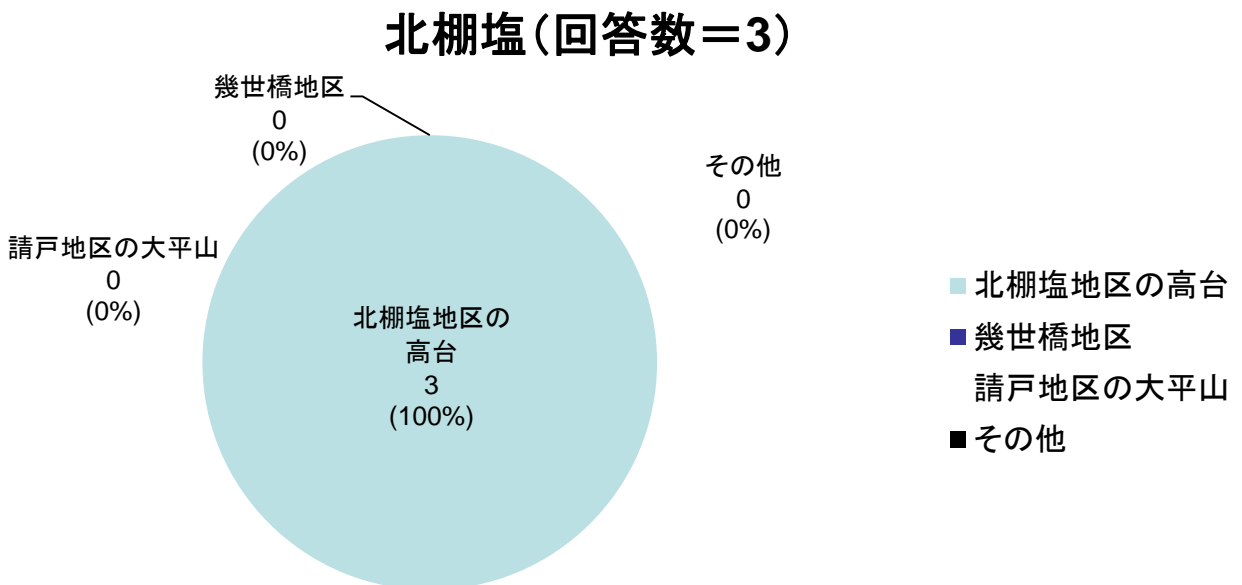
帰町した場合の居住先 (2)

※浪江町への帰還について「戻る」または「わからない」と回答したものを集計

問3-1-1 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？ <北幾世橋>



問3-1-2 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？ <北棚塩>

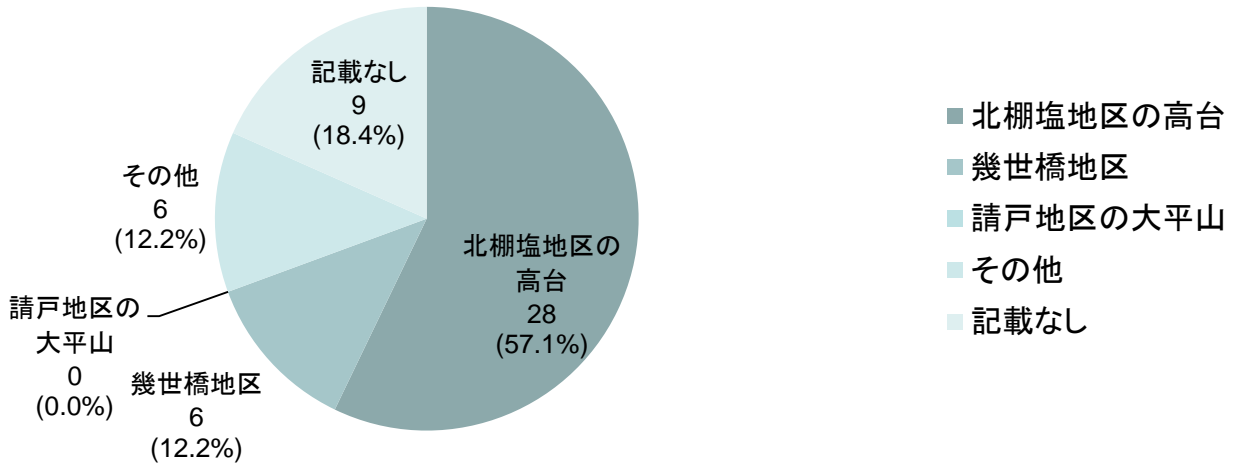


帰町した場合の居住先 (3)

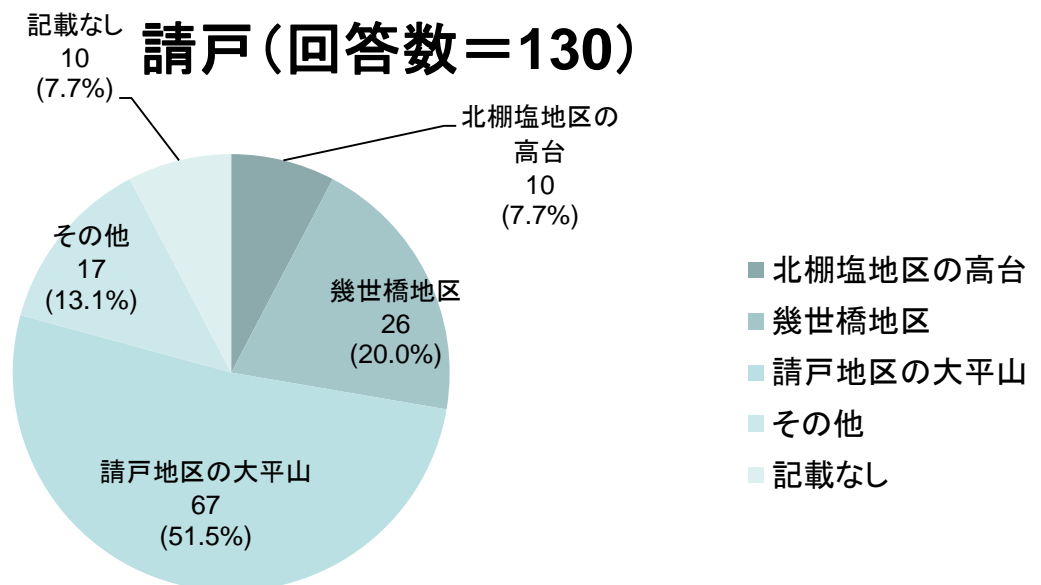
※浪江町への帰還について「戻る」または「わからない」と回答したものを集計

問3-1-3 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？ <南棚塩>

南棚塩(回答数=49)



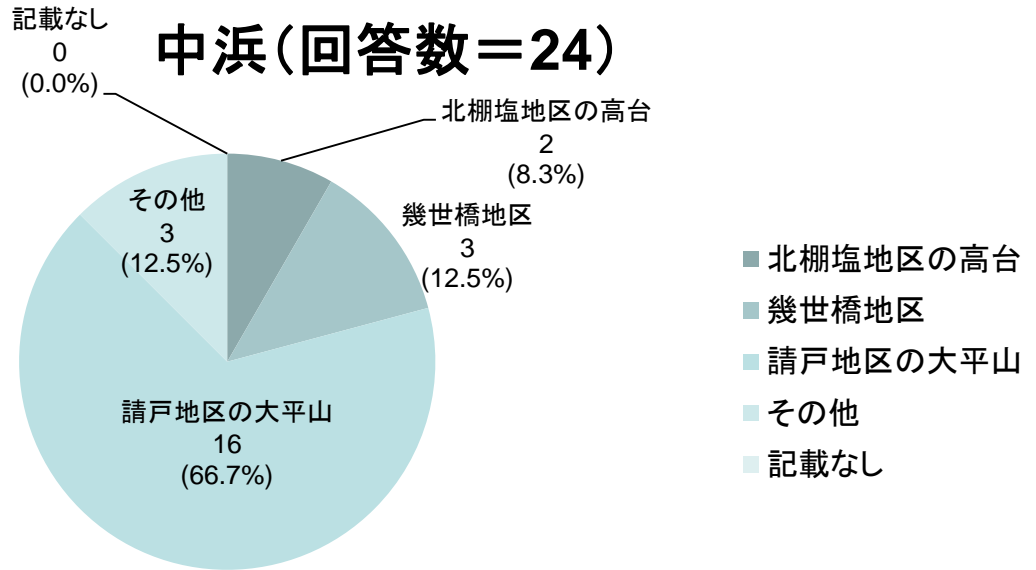
問3-1-4 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？ <請戸>



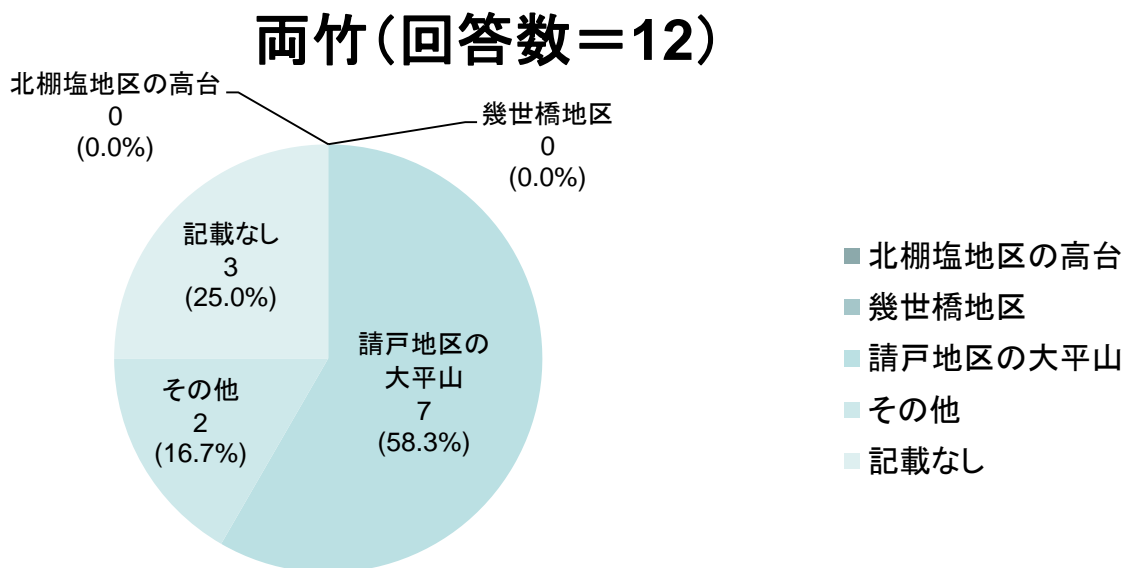
帰町した場合の居住先 (4)

※浪江町への帰還について「戻る」または「わからない」と回答したものを集計

問3-1-5 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？ <中浜>



問3-1-6 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？ <両竹>

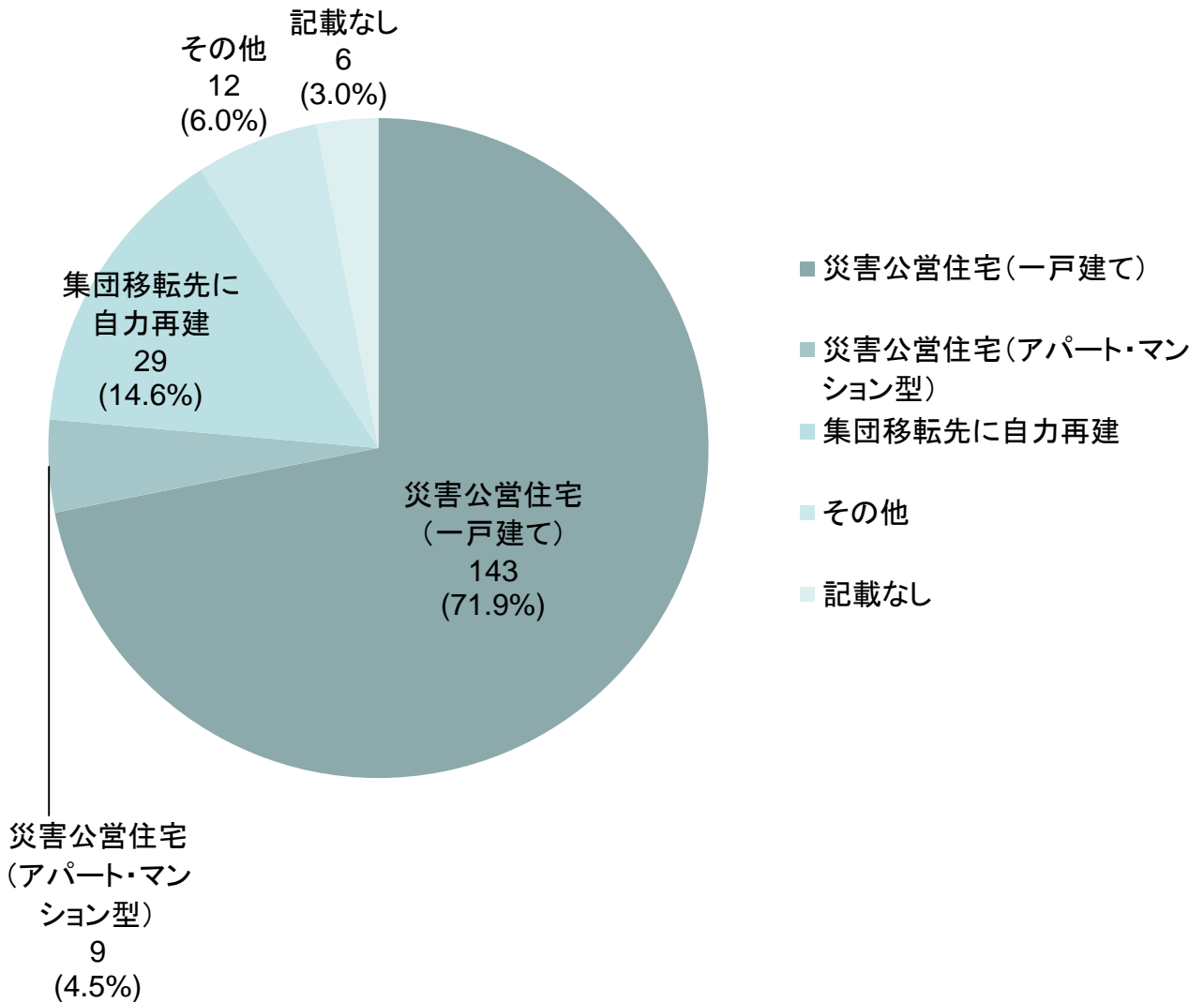


移転先ごとの希望する居住形態について(1)

※浪江町への帰還について「戻る」または「わからない」と回答したものを集計

問3-2 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？

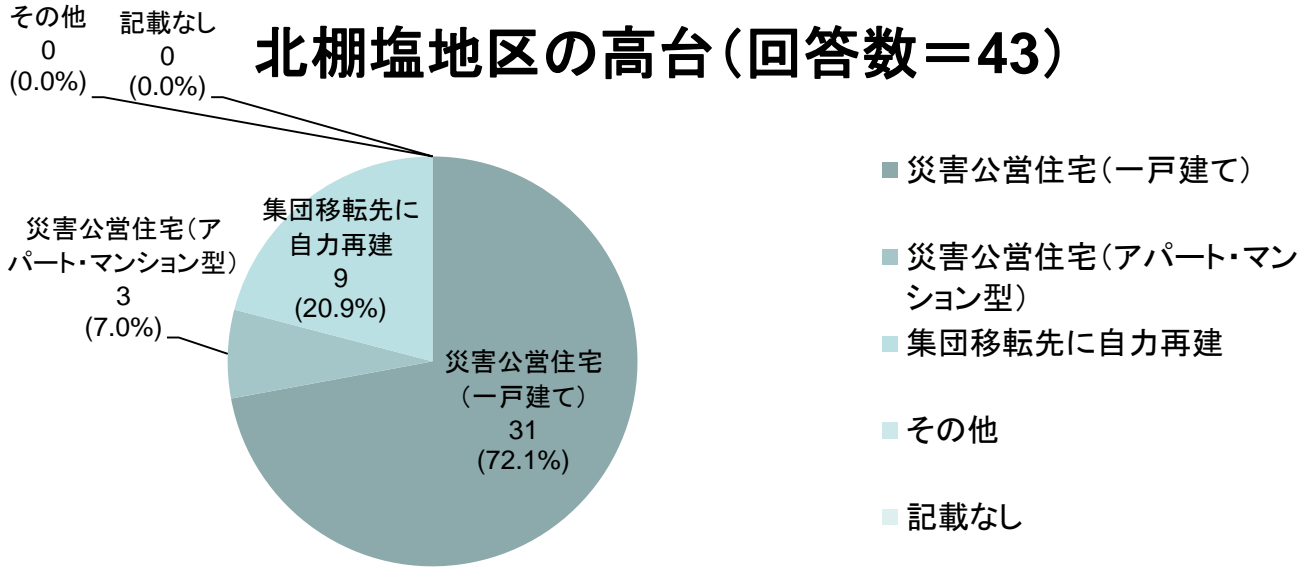
合計(回答数=222)



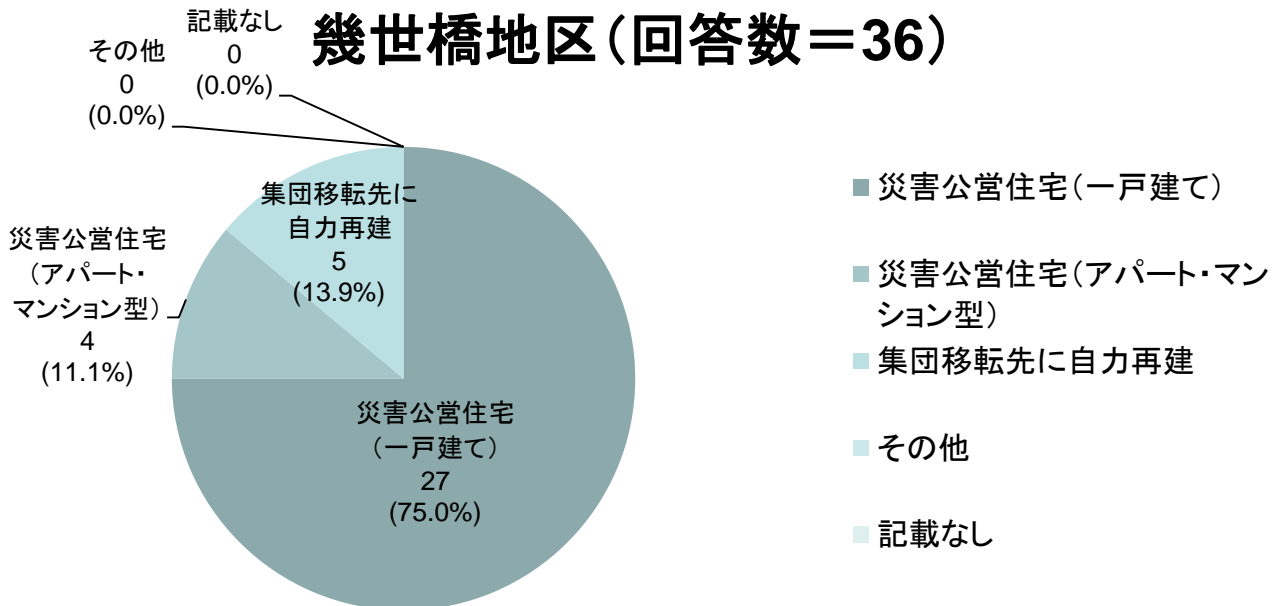
移転先ごとの希望する居住形態について(2)

※浪江町への帰還について「戻る」または「わからない」と回答したものを集計

問3-2-1 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？(北棚塩地区の高台)



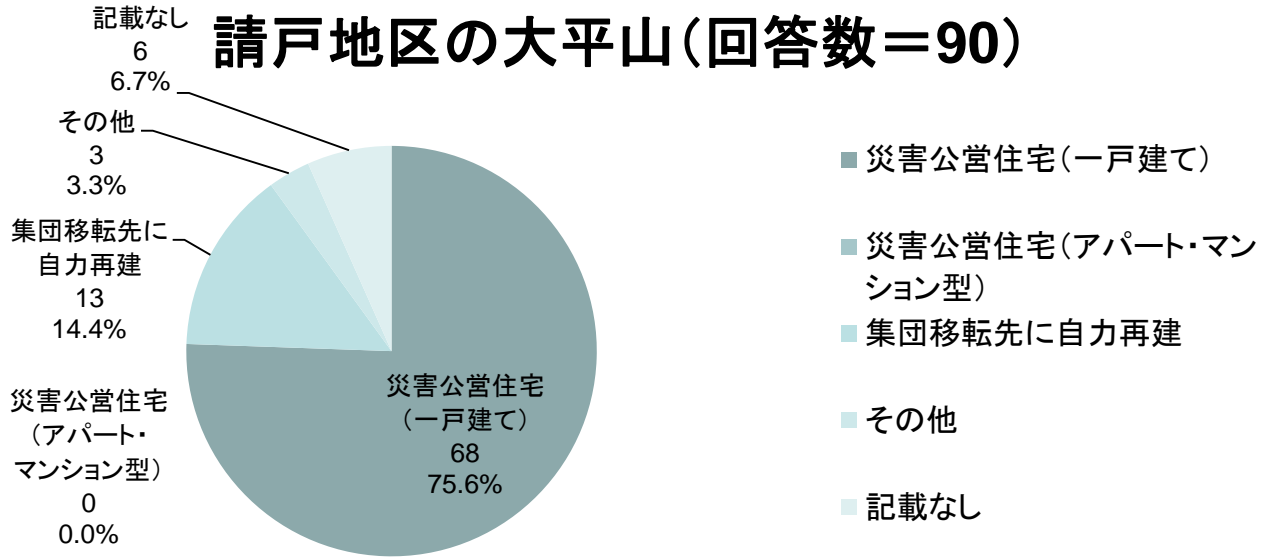
問3-2-2 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？(幾世橋地区)



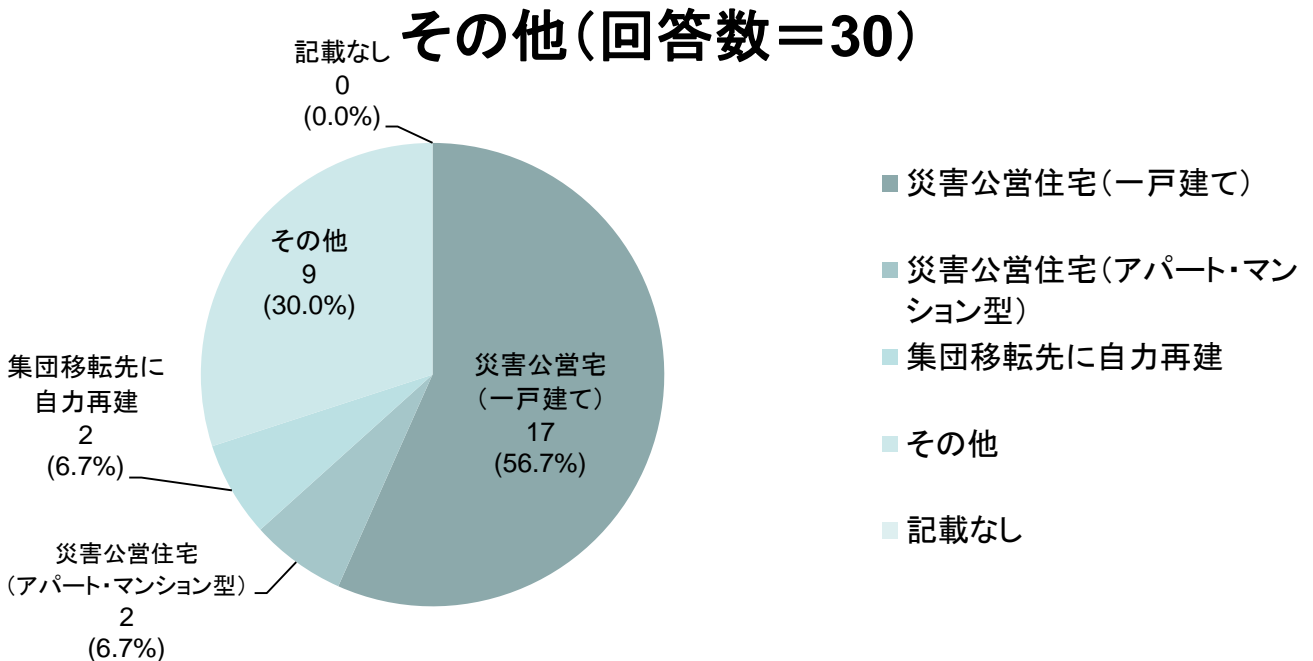
移転先ごとの希望する居住形態について(3)

※浪江町への帰還について「戻る」または「わからない」と回答したものを集計

問3-2-3 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？(請戸地区の大平山)



問3-2-4 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？(その他)

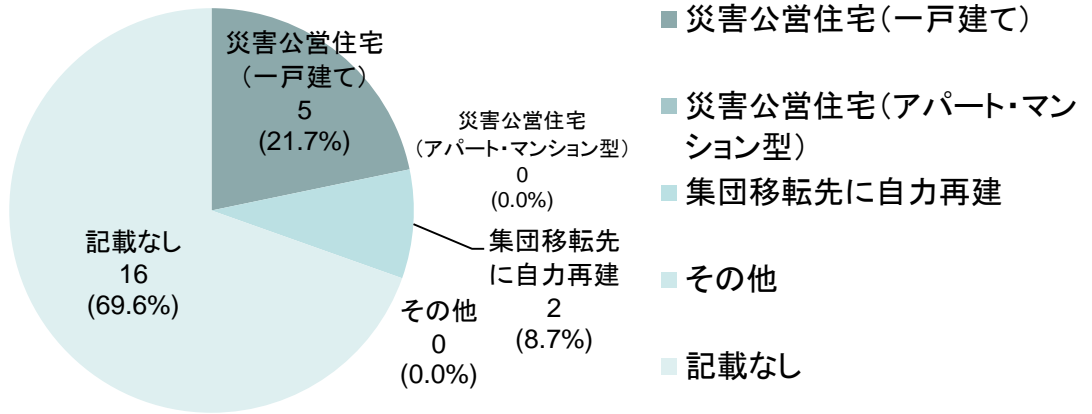


移転先ごとの希望する居住形態について(4)

※浪江町への帰還について「戻る」または「わからない」と回答したものを集計

問3-2-5 帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？(記載なし)

記載なし(回答数=23)



移転先および居住形態ごとの年齢構成

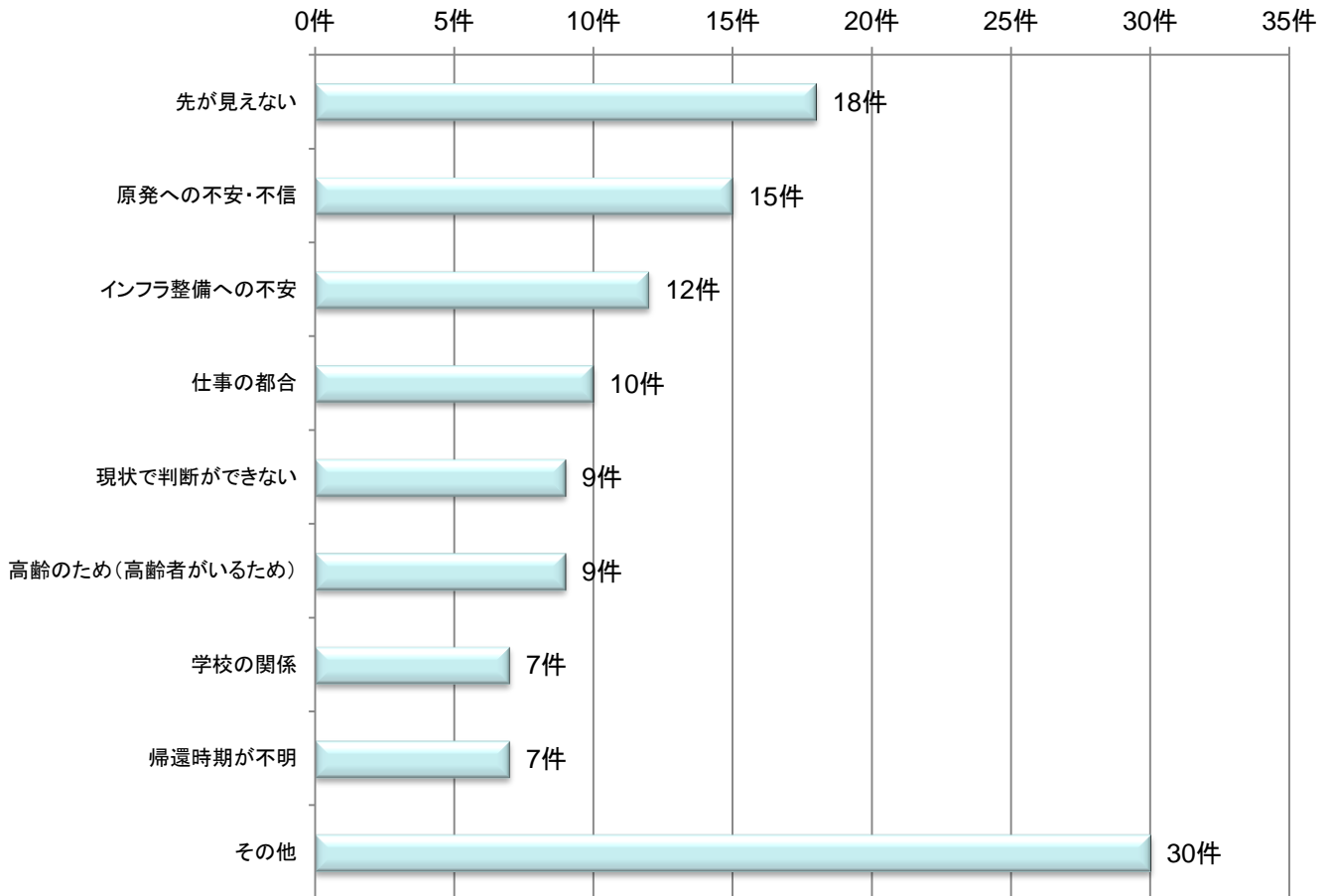
※浪江町への帰還について「戻る」または「わからない」と回答したものを集計

問3-3帰町した場合、どこにどのような居住形態に何人でお住まいを考えていますか？

移転先	居住形態	65歳以上	18～64歳	高校生	中学生	小学生	未就学児	合計
北棚塩地区の 高台	災害公営住宅(一戸建て)	44	32	0	2	5	3	86
	災害公営住宅(アパート、マンション等)	5	1	0	0	0	0	6
	集団移転先に自力再建	13	11	0	0	0	0	24
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	小計	62	44	0	2	5	3	116
幾世橋地区	災害公営住宅(一戸建て)	40	31	1	0	2	2	76
	災害公営住宅(アパート、マンション等)	3	1	0	0	0	0	4
	集団移転先に自力再建	5	8	1	3	1	0	18
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	小計	48	40	2	3	3	2	98
請戸地区の 大平山	災害公営住宅(一戸建て)	75	87	2	3	8	4	179
	災害公営住宅(アパート、マンション等)	0	0	0	0	0	0	0
	集団移転先に自力再建	19	16	2	1	1	1	40
	その他	4	3	0	0	0	0	7
	記載なし	3	6	1	1	1	0	12
	小計	101	112	5	5	10	5	238
その他	災害公営住宅(一戸建て)	18	31	1	3	3	0	56
	災害公営住宅(アパート、マンション等)	3	0	0	0	0	0	3
	集団移転先に自力再建	6	3	0	0	1	1	11
	その他	8	7	0	0	0	0	15
	小計	35	41	1	3	4	1	85
記載なし	災害公営住宅(一戸建て)	6	5	0	0	0	0	11
	災害公営住宅(アパート、マンション等)	0	0	0	0	0	0	0
	集団移転先に自力再建	2	3	0	0	0	0	5
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	記載なし	6	9	2	0	2	0	19
	小計	14	17	2	0	2	0	35
		65歳以上	18～64歳	高校生	中学生	小学生	未就学児	合計
帰還者数	260	254	10	13	24	11	572	
帰還者割合	45.5%	44.4%	1.7%	2.3%	4.2%	1.9%		

問4 帰町について「わからない」と答えた理由

■ 帰町について「わからない」と答えた理由



問4 帰町について「わからない」と答えた理由(記述内容 その1)

①先が見えない

今の段階では、この先どうなるのか先が見えない。

先が見えないから

先のことはわからないから

目下アパート暮らし脱出のための中古住宅購入を考えており、その後の展開は自分自身のことながら予測不能なため。

帰町しても先が見えない！！

現在、先が見えないので

1年9カ月たった現状があまりにも悲惨でしたので想像がつかない。

今の現状では先々のことが見えない。

目途の立っていない現在では計画が立たない

何年先になるかわからないから。

今現在の状況につき不明

いつになるかわからないから。

戻れる状態にどれくらいの年数がかかり、それまで健康な体を維持できるかわからない不透明な状況があるから(或いは戻らないことも考えられるから)。

インフラが整備され生活ができるかどうかわからないため。

今の時点では判断できない。原発の収束、インフラの整備など本当に住める状況になるのか。

高齢ですので先が見えません。請戸には帰りたいですが・・・

子供たちが結婚した場合、浪江町に帰るかどうか現時点では迷っているようなので、わからないと回答しました。

家も津波で流されて原発も今からどうなるかわからないから。

②原発への不安・不信

第一原発に近すぎて戻っていいか悩んでいる。

帰町することが可能という定義ですが、核燃料も含め、環境放射能がなくなった場合は、帰町も考えたいですが、国県町の判断で帰って大丈夫と言われても安心して帰ることはできない。人命や健康被害を最優先し、金や特定の人々の利害やもくろみ等により誤った判断が下されることのないよう良識ある判断をしていただきたいと願っています。

原発から近い。若い人が戻れるかどうかわからない。

原発がまだ収束していないため。今後また原発に異常が発生するかもしれない。だからどうして良いかわからない。

放射能の危険から何時解放されるのかははっきりしないため。生活物資を購入するところが近くにないと生活ができなくなる。生活を支えるこれらの基盤整備から考えていかないと生活居住圏は成り立たない。

原発が収束しない限り無理。

今後5年間は放射能の関係で戻ることができないという話なので。

放射能への不安、原発の収束、西の山側の放射線量が高いこと。除染効果等について不安等なのです。

戻りたいのは当たり前ですが、子どもの健康(放射能に対する不安)を考えると戻れないのです。放射能の心配がなければぜひ戻りたいです。

原発がまだ安全ではないので

今でもずっと帰りたい気持ちはあり、帰れないつらさで心の病気に苦しんでいます。町全体が震災前の状態になり、町民も以前と変わらないくらい戻り、以前と同じ生活ができれば帰りたいです。でも、最近手抜き除染が発覚したり、町役場の北側に汚染物を仮置き場にするなど安全・安心に生活できる日はすごく遠く感じられるため。年間20ミリシーベルトではなく、以前の年間1ミリシーベルト以下にするべきです。

福島第一原発の収束が見えない状態では判断がつかない。また、生活するための雇用が整備されるのかわからないため判断に困っている。

原発が近い。ため。

問4 帰町について「わからない」と答えた理由(記述内容 その2)

③インフラ整備への不安

医療機関が戻れば考えます。

インフラ及び放射能汚染等の整備がきちんとされなくてはいつ戻れるか答えようがない。復興計画では29年ごろと明記されているが実現の可能性を示していただきたい。

災害公営住宅のできる時期にもよる。いわき市～南相馬市間の道路が普通に通れるようになるのか？

学校、病院、公共施設がないから

店、医者、水道が心配です。

交通手段の復興がどうなるのかわからない。

ライフライン、インフラ、除染、その他もろもろが進んでいないから。

船が残ったが請戸港の復旧まで何年かかるか。その間鹿島港からの出入となれば新しい場所に拠点を置くか。子供が帰らない所では・・・

帰町可能となった場合の生活環境が高齢者にとってどの程度適したものになるものか今の時点ではよくわからないので。

町全体のインフラ整備が完全に終了した場合は、帰る気持ちがあるが、その全体像が見えてこない場合はその考えが変わると思うので現時点は帰るかどうかかわからない。

④仕事の都合

勤務先の都合により勤務地が変更になる可能性があるから

家族の職場が現在の住所に近い。第一原発が不安定である。

いわき市で事業再開した場合はわからない

職場が富岡町のため、双葉・大熊が通れないと浪江には住み仕事に行けないし、職場が中通りから戻らなければ戻れないから。

職場を変えることが難しい。子供をまた転校させることがどうなのか。東電の燃料棒取り出し等終わっておらず、また避難することにならないのか等不安材料が多いため。

資金面、健康、年齢(高齢者が二人)、子どもが新しい場所で仕事をはじめている等

勤務の関係で

浪江町に戻って仕事があるのか。商業施設やインフラがどこまで復興するのか。

避難先で生活しているので、帰町可能となった場合に現在の仕事を続けることができるかどうかかわからない。また、帰町した場合、新たな仕事があるかどうかかわからないので、現時点ではわからない。

⑤現状で判断できない

今のところ、どういうふうに進んでいいかはっきりしていないのでわからない(子どもも25年4月から高校を卒業して働くためはっきりしていない)。

現時点では判断できない。

お墓のことetc・・・。帰りたけれど今はわからないです。

現時点では何とも言えない(ライフライン等)。

現在の状態では答えがでない。

現在の状況において判断はできません。

現時点での状態では答えは出ません。

家族のこれからの状態と健康のことを考えると帰りたけれど現時点では判断できない。

自分で帰町するかどうかははっきり決めていないため

問4 帰町について「わからない」と答えた理由(記述内容 その3)

⑥学校の関係

今、子どもがおり、小学校なので当分は戻らない予定で大きくなったら考える。

学校の都合と原発問題

子供たちがどこの学校で終えるのかわからない。自分たちで勝手にあっちこっちの学校に行くようになったら、やがて浪江町の子供がいなくなると思い、次に続かなくなる。

子供の学校生活がネック

戻りたいけど戻れないのが現実であり、子どもたちの転校が関わってくるから

家庭の事情(子どもの進学、学校関係が落ち着いているから)が戻れる状態になった時、はたしてどのくらい除染が進み、福島第一原発の作業がどこまで進んでいるのかの条件で判断すると思う。

⑦高齢のため(高齢者がいるため)

10年以上帰町できないものと考えから、年齢的に無理。

年齢が高齢のため、一人で住む際に不安がある。

高齢の両親をかかえ、母親は介護中でやっと医療の方が落ち着いてきている状況です。5年後の生活は今では考えられず、一日一日生きていくのが精いっぱいです。親は環境と世話をしてくれる人たちにやっと慣れてきたのにこれ以上環境を変化させることは難しいと思います。

私たちは老人世帯になってしまいました。請戸には帰りたと思いますが、何も考えが浮かんでこない。あと何年先の話になるのかなー。

現在、老健施設へ入居中のため

住むところがどこがよいか、高齢者ですから少し迷っています。

両親が高齢のため(要介護3の父、母)。明日どのようなことが起こるかかわからない。その日一日一日が精一杯で5年後にどうなるのか等考えられないから。特に病院の近くでないと生活していけない。

80歳過ぎたので自分の健康を考えると先はわからない。

私は車にも乗れないので、医者、スーパーが近い所じゃないと生活ができません。息子の仕事も安定していないし、今の補償問題も決まらなると生活も考えられない。

⑧帰還時期が不明

帰町の時期が不明なため。

帰町が何年先になるか不明なので(高齢のため長くは待てない)。ゆえに現在自力で南相馬の方に移転計画を準備中。

浪江町に戻るプロセスが明確でない(何年後なのか)事と仕事の関係で郡山に住んでいるが、少しずつ慣れてきている。

帰町することが何年先か見通しがついていないこと。移転先の候補地として「大平山」「幾世橋地区の高台」というイメージがあるようですが、買い物・病院を考えると高齢者には決断しかねます。

町長の話では5年、6年後にならないと帰宅できないと話していた。早くは帰宅できないからそれまで考えてみる。

先が見えないし、生きている間には帰れない

何年後に帰町になるのかわからないから。子供の進学・就職などにより。

問4 帰町について「わからない」と答えた理由(記述内容 その4)

⑨その他

まだまだ問題があるのに帰れるとは思えない。また、東電が問題があるのに簡単に帰れるとは思えない。

震災前の状態に戻るようであればかまわない。

子どもたちと意見が合わない。できれば海の見えるところに帰りたい。

何が何だかよくわかりません。

福島に戻りたいが場所まではまだわからない。

放射線量は生活できる範囲であるが、荒野と化したあの光景を目の当たりにして現在は住む勇気がわからない。

長男の会社はいわき市、孫たちの学校は福島市。できれば家族一緒に生活したいと思っているので。

今現在パソコン教室に通っています。もう1年くらいパソコン教室に通うと思います。息子の就職のときがこないとわかりません。

漁で生活ができるのかわからないので。震災前のまたは近い場所で生活できるか不安だから。

仕事があれば。年齢によりどこに行っても仕事がありません。

震災前の町に戻すことが不可能だから

東電も浪江もほとんど変化しないのにどうしてもはっきり物事を決められるのか、そのへんが理屈が合わないと思います。

農業をすることができないから。それに高齢のため。

子供たちが戻ることを反対しているので、将来どうするかまだ決めかねる。

子供たちが現時点で戻らないため

請戸の住民がバラバラになるのは反対です。請戸部落を作ってください。その時には帰ります。

時間がたつほど戻らない。

人生いたるところ青山ありで、中通りもいい所でもある

土地利用イメージからは戻りたいと思うが、両事業の詳細設計等から判断したい。

現時点では考えていない

今現在では帰還は無理と考えているから

子供の就職先によるので住むところが決まらない。

集団移転までどのくらい年数がかかるかわからない。5年以上かかるのでは無理かな。

家もないし、今ここで考えられません。

自分たちがいつまで元気でいられるかの狭間に立っている。毎日のストレスで体調があちこち崩れてきている。

帰町するとして、浪江単独でしかも限られた地区での帰町は考えられない。近隣の町との連携もあるだろうし、具体的の方策が浮かばない。

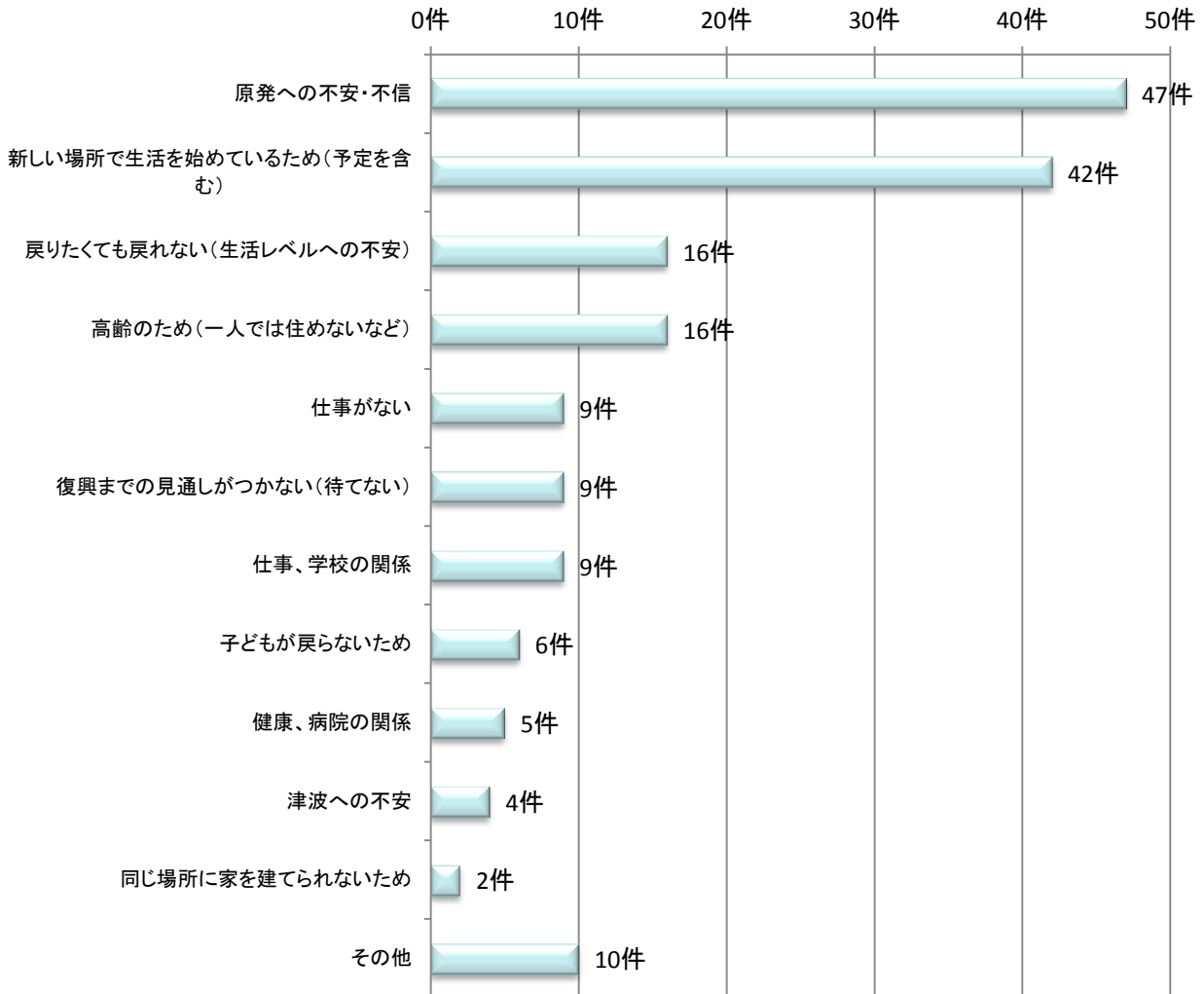
現状では判断できないため。

帰町できる、となった基準によって考える。(除染等の)

復興居住と農業の再開には相当の年月が要するので、息子家族と新たな場所の生活も検討している。

前の所に戻りたい気もあるし、現在住んでいる場所にこのまま住みたい気もある。

問5 帰町について「戻らない」と答えた理由



問5 帰町について「戻らない」と答えた理由(記述内容 その1)

①原発への不安・不信

第一原発より近い。子供の勤め先が現在中通りであるため、中通りに落ち着くものと思われる。ただ、夏暑く、冬寒いので、浜通りに住みたいとも思っている。

東電の原発が完全に廃炉になるのが30年以上かかるので不安で戻れない。年齢が高く帰れそうにもない。

廃炉で冷温停止状態が維持されるとしても、そこに格納容器燃料取出し終了まで安全に終了するまで安心とは思わないから、いつ、また大地震が起きたとき、原子力と処理水タンクが数多くある。これらがまた破損したらと思うと安全な町とはならないから。子供の成長が何より心配である。

①避難時に20km圏外に避難しているのに、なぜ原発が完全に収束していないのに、10km圏内に戻そうとするのか。国の方針なのか、町の方針なのか疑問に思う。

②福島第一原発より10km範囲で帰町させる考えが間違っていると思います。現在住んでいる町民(県内)の住居を除染したほうがよいと考えます。若者の帰らない町には帰町はできない。

③解除準備区域、除染の件ですが、警戒区域を解除しないで除染をしてほしい。防犯上の観点から解除しないでいくだけでも除染方法はあるものと思われる。

原発がある限り戻りません。完全に東電が更地になったら戻ります。その頃にはこの世にいません。

既にコミュニティは壊れている。低線量といえども地盤沈下や収束していない1Fとの距離が近接している。水源である阿武隈山系の汚染がひどく、河川、海洋は長年にわたって汚染を免れることはできない。若年層が住まない地区に未来はあり得ない。

原発が近すぎて怖い。小さい子供もいるため、廃炉までの数十年のうちに何かが起きては困る。

原発の危険性は解体終了まで続く可能性が考えられる。

原発事故が収束していない。放射能汚染されている。地域に子供が帰らないため。親だけが帰っても将来の生活が不安である。

これだけの資料では決断しかねる(学校、病院、商店などが無い)。また一番は原発の収束に30年以上もかかるのに、その間に何事かあった場合のことを考えると決断できない。

原発が安全に収束しておらず、安全が確保されていないから。

原発事故が無ければ集団移転していたと思う。廃炉にならない限り、原発の近くに住むことはありえない。以前のような生活に戻るまでは帰れない。子供、孫が来れないところに住んでも意味がない。

原発が近くにあるので

長男夫婦は会社の関係また原発が収束しないなかで子供たちを思うと戻らないといっている。

原発の収束がわからないため(いつ原発の事故が発生するかわからないので怖くて住んでいられない)。また地震で何もかも無くなったため沿岸には住みたくない。(今現時点での気持ちです)。

放射性物質がある限り戻らない。除染にも限界がある。

放射能の不安(孫たちと一緒に住みたい)。町民の半分も戻らない町。老人(年配者)のみの町、子どもの見えない町には魅力が感じられない。

国と電力会社は事故前まで原子力は二重三重に安全になっているので、絶対安全といってきたのにあの有様で絶対信用できません。事故後の原子力プラント内の核物質を全部取り出し完全にどこかに運び出して新地にないてないこと、浪江町に残してある農地が汚染され元の生活ができないから。

原発が収束していない状況で、原発から10km以内の浪江町には帰町できない。チェルノブイリでは26年たっても未だ30km以内は禁止になっている。

原発の収束も見られず、津島地区、上の方からもまだ流れる恐れもあるので下流に住むことは考えられない。

原発が収束していないため

問5 帰町について「戻らない」と答えた理由(記述内容 その2)

①原発への不安(放射能への不安)

原発事故の収束がいつになるかわからないため

どこに暮らしても年齢で生活していけるのであれば考えるが、原発が収束していない。

いくら空間線量が低いからと言って周囲が汚染され、原発の廃炉に40年以上、毎回機械的トラブルのある危険な場所ですよ。それに帰還してどう生活するのか。農家なんて無理。生活できない。

第一原発が事故後と何ら変わらず、危険な状況にあると思うので。

原発事故のため

地域のすべての放射線量を取り除けないから。メルトダウンした原発の事故処理中も油断できないから。

線量が心配なので

除染してもその安全性が100%確保されていない。水源の山の方の除染なしに上水道の安全が確保されるのか。除染しても数年たった際、放射線が上がって除染の繰り返しにならないかなど不明な部分が多い。子供を持つ親として100%安全が確保されない限り戻ることは難しいと思う。

放射能が出ている東電の煙突を見て生活できない(頭にきている)。復興もしていないのに住めない。

原発は収束しておらず、双葉町に中間貯蔵もできる可能性もあり、請戸、中浜、両竹は近すぎる(線量の高い、低いは関係なし)。

原発の完全収束が見えない。子供、孫を返すことはできない。

原子力収束、津波対策、企業の復旧、除染等その他問題点を低線量地域だけで区域を決めるのはどうか。子供もまだ若いため、簡単に結果は出せない。

線量がどのように変化(減少)するかわからない(特に山側)。事故収束が何十年先であるため。

浪江町全体での除染は到底無理です。7割以上は山林。汚染の高い場所は除染できません。一部の平坦部のみの除染では安心して子育てなど無理でしょう。また近くに現状の原発がある限り安全な地域とはとうてい理解できません。国、東電、自治体、本当に信頼できません。新たな方向性をはっきりと示すべきではないでしょうか。

原発事故がなければ大平山か町内に住んでいたでしょう。あの3.11よりただちに健康被害がないと説明しておきながら、国や東電の責任者の人たちは単身赴任の半年か1年交代でしか家族で住んでいない。”何故” ”腑に落ちません”。65歳の私が生きているうちに事故の完全収束・廃炉ができるでしょうか。この怒りを持って大好きな浪江に住むことはできません。

請戸の場合、たしかに線量は低いかもしれないが、東電からの距離を考えてほしい。毎日東電が見える場所で生活したくない。

現在の原発の状態、メルトダウン・メルトスルーしているので、10km以内には住めない。町全体の除染など不可能。職場も無ければ店も医療機関も整備されるとは思えない。早く30年戻らないと決定して、新たな生活ができるように進めてほしい。

線量が低いといっても、東電が近く、まだ何があるかわからない。子供のことを考えると戻れない。除染をしても除染しきれぬのか？なぜ山から山林からやらないのか？

原発の廃炉が最低条件だと考えている。一次立入する都度、あの状態を見るとむなしくなり、先行き見えず、戻れないと思う。

原発の廃炉は30～40年といわれており、今後大地震等があった場合には、大変心配で住むとは思わない(子どもたち)。

原発の収束が不安、子育てに不安と心配

3.11以前の環境が整わないから。原発の廃炉が30年以上かかるため、安全が担保されないから。子どもがいるため戻ることには不安があるから。

問5 帰町について「戻らない」と答えた理由(記述内容 その3)

②新しい場所で生活を始めているため(予定を含む)
新しい場所で生活を始める予定だから
新天地で生活をしているから
居住形態が別町にあるため
家を建て、普通の生活を始めている。「戻る」「戻らない」を決める資格がない。震災から間もなく2年になる。いつまでも被災者ではられない。新居を新たな土地に求めた。現在の仕事を続けていくためには、交通網の整備上浪江では当面困難と判断した。
いわき市勿来町に家を建てたため
新しい場所で生活を始めているため。
避難の場所に新しい土地・仕事に就いたため
いわき市石森地区に家を建てたから
新しい場所で生活を始めている。
いわきのある場所に定住することに決めました。戻りません。
新しい場所で生活を始めているため。
避難地に用地を求めているため。
家族全員の仕事の都合もあり、また将来を考えれば他の経済圏にて再出発したい。
原子炉(メルトダウンした)の安定まで先が長すぎる。新しい土地で生活を始めているため。
住居も仕事もこのまま続けていくため。
いわき市内に土地を買ったため。
高齢者の独り暮らしですので戻っても近くに子供がいなければ不安ですので、現在の地・二本松にて暮らしたいです。
いわき市内に住宅を購入する。25年度中に入居する予定。
新しい場所で生活を始めているため。浪江町に戻りたい気持ちは変わりませんが、具体化するまで待てません。ただ将来浪江町に住みたい気持ちはあります。やっぱり浪江町が一番好きです。
新しい場所に土地を購入したため。
新しい場所で生活を始める準備を始めているため。
新しい場所で生活を始めているため。
ふるさともなくなくなり、近所の人でも大勢亡くなり、集団移転しても以前の生活ができない。福島原発の近くでは農業はできない。家もお墓も新しい所に建て、新しい生活を始めているため。父親を入所してくれるところがなかった。
新しい場所で仕事をしているため
請戸地区は津波で流されたため。すでに海から遠い場所に土地を求め、新しく家を建てているため。
新しい場所で生活を始めている。
新しい場所で生活を始めているし、原発問題があるため安全・安心に暮らすことができるとは思わない。
新しい場所で生活を始める。
山形市に家を購入したため。
新しい場所に土地を求め家を建てた。
新しい場所での生活を考えているため
町が元に戻ることはあり得ないので、汚染された所には戻らない。町は復旧はするが、復興はあり得ない。今の場所で生活を始める。
家族が津波で未だ行方不明となっているので、土地も海もつらくて見て過ごしていけないと思うから、孫もいることだし学校問題もあり、福島市の方で住む考えをしています。
福島市がいいから
今の現住所で就職しているため。家も購入予定。
新しい場所で生活を始めているため。
息子夫婦が働いている会社で新しい工場ができて引っ越すにあたり、孫の面倒を見なければならないので、県外に引っ越すため。そこに家も建てるため。
新しい場所で生活を始めている。
家族で生活をするため
新しい土地で生活を始めたため
新しい場所での生活を考えている。何十年もかかるし、若い人が戻るとも思えない。現実的に考えて津波地区を眺めて暮らすのは苦になると思う。

問5 帰町について「戻らない」と答えた理由(記述内容 その4)

③戻りたくても戻れない(生活レベルへの不安)

交通機関はもちろんライフライン、病院、学校等の公共施設、ほとんどの家は不在のため生活レベルに達しない。このような状況の中で戻って生活できるとは思えません。原発もまだ解決せず、戻りたくても戻れないと判断しているため。

戻っても家もないので仕方ない。このような状況で戻れるわけがない。
本当は帰りたい。けど見込みがないから、職もないしあきらめています。

現実的にどう考えても無理であろうと思われる。若い人たちの将来を考えると放射線のこと、ライフラインのこと、その他いろいろと考えてみるが現実的でない面があまりにも多すぎるのではないと思われる。これはあくまでも私個人の考えであるが、生活の場を移したいと考えているところです。

戻れないから。
戻りたくても戻れない。

戻らないのではなく、戻れないと思います。年齢はだんだん若くはならないのです。いつまでも中途半端な気持ちでいることに耐えられなくなりそうです。定住するようにしたいです。

戻りたい気持ちはありますが、戻る場所もないし、5年以上戻らないとしたら新しい場所で生活基盤が成り立っていくと思う。
生活基盤がいつ整うのか不明。元仕事場が新しいところへ工場を新設するので戻れないと思う。
インフラ、物を作り食べる生活が不安で怖い。原発が収束していないので、これからの生活に不安があるため。

戻りたい気持ちは日々想っていますが、これから高齢期に向かって、生活、体力の不安が一番です。少しでも近くに医療施設、スーパー等がある場所を希望しています。長男(現在、神奈川県)も戻らないといっていますので、若い世代に合わせるしかありません。

ライフラインの無い、働く場所も無い、原発の見える場所には帰りたくない。
津波の恐怖が残っているため。

5年くらいで戻れるわけがない。生活基盤はできつつあります。またそれを投げていくわけですか？逆に何年後もどれるんですか。

職業柄、地域の皆さんにお世話になり成り立っていた仕事なので、以前と同じ状態に戻るとは考えにくい。震災発生時の4月上旬から仕事をしているので、以前は事業主だったが今は勤務状態にあるので、現在の場所から違う場所での生活を希望している。以前と同様くらいの人たちが戻ってくれば自分も戻りたいが、戻りたくても生活が第一なので戻れないというのが本当のところ。

④高齢のため(一人では住めないなど)

年齢を考えると・・・

高齢のため

老人一人で戻っても暮らせない！福島県の仮設で暮らしたい。

田、畑等を津波で被害にあい、将来米をつくることができない。年齢を考えると戻ったとしても生活することはできない。

年齢的に残された時間がない。農業を営営していましたが、除染と耕地の構造改全の見通しがたかない。後継者の仕事場がない。

子供の近くがよいから(子どもは将来も放射能等が心配で帰らない)。高齢になり新しい環境に適応できないから
高齢になった上に、生活物資がみんななくなった。新築する資金もなく、車もないので近くに店や医院がないと住めない。

一人住まいのため。

私も戻るころになると高齢になるので考えられないです。

現在、栃木の介護施設にお世話になっております。生まれ育った浪江町に戻りたくても現状では難しい。家族もなく一人です。介護施設があればと思います。

私も妻も83歳を過ぎました。震災後ある事情により若い家族と別れて暮らすようになりました。収入がはいような仕事はできません。厚生年金でほそぼそと暮らすしかありません。暮らすだけの土地と家を建てる山もありますが、除染をしても5年間は帰れないといわれているようなので気持ちがまとまりません。

若い人(息子たち家族)が帰らないと理由

息子が郡山市勤務のため、世帯主が心身共に病弱で息子たちの近くに住まないとい生活困難なため。

問5 帰町について「戻らない」と答えた理由(記述内容 その5)

⑤仕事がない

仕事がないことには生活していけない。私にとって仕事が一番と考えるから。

戻っても仕事がない。戻ったら今仕事をしているところまでの通勤が難しい。定年後を考えると子供たちが戻らないため老後の楽しみもない。とかいってもどこに行ったらよいのかわからない。

職場がない。職場がある場所に住居を求める。

①いわき市で事業再開する予定 ②浪江では事業再開は難しい。何年先かわからない ③放射線量が高すぎて無理

仕事のことで水です。大杉ダムとか高瀬川の水を使うのは何年後だから大丈夫かもしれませんが、心配です。線量は少ないけど、原発から一番近い、それも心配です。

仕事がない。

我々と子供の就職先がないため。生活再建が難しい。また、子どもが他県に就職しているため。

農作物を作ったとしても、販売することは不可能であり、生活していくことはできない。また、就労の場の確保が難しいため。

⑥復興までの見通しが見つからない(待てない)

待ちきれません。帰町が可能となるには相当年数がかかります。墓地の再生をお願いします。

先祖の土地ですが、この現状でどのようにしてもどれるでしょうか。東電が、国がどのように保証してくれるのか先が見えない。金額の問題だけでしょうか？近隣の汚染地区があるのにどうやってライフラインを作るのですか。今は孫の家に住んでいる。

漁業はこの先どのくらいかかるかわからないし、高齢のため希望がありません。早く安心、安全な土地で生活したいです。

病院、施設、生活の基盤となるものの設備に時間がかかりすぎて待てない。最終処分場のある場所には住みたくない。

帰っても家もないし、何年かかるかわからない。戻るにしてもどこでもいいから、地に足をつけて落ち着きたい。

復興までに何年かかるかわからない現状では年齢的にも「戻る」という選択は難しい。震災で主人を亡くし、浪江町に戻って1人で生活していく自信もない(これまでにあまりにも時間がかかりすぎている)。年に何回かは帰りたいので、そういう人たちのためのことも考えて欲しい(短期滞在的な)。

大平山に戻るとしても何年かかるのかわからないでしょう。私には年も年だし。

何年待つかわからないから

何年先になるかわからないから。

⑦仕事、学校の関係

子供の就学(これまでの浪江での空白の時間を考えると戻って就学させるメリットは少ないと思う)。

仕事(震災前の仕事にはもう就けない)。

大きな柱である上記2点を考慮すると、もう戻っても生活再建の道はないと考えている。

仕事の関係。

仕事、学校といった生活圏が避難先(現在住んでいるところ)にできてしまったので、いまさら引っ越しや転校などをさせるのは難しいので。

子供がこちらの学校になじんでいるため。

私の妹家族たちは桑折町仮設住宅に住んでいます。私も仮設に入居しています。将来、妹の仕事を手伝いながら安心し、身内の近くで一生住めたら良いなと思っています。あの事故以来請戸に住むことも戻ることもできません。この土地で生活していきたいです。仮設住民も桑折町内で住んでいくことが望みだそうです。公営住宅一戸建て、たくさん作ってください。最後の望みです。願いを叶えてください。いま現時点です。

子供たちもこちらの学校(高校・中学)に編入して友達もつくり、学校生活にも慣れ、過ごしているため。また、夫が休養中(病気療養中)に浪江へ帰っても今通院している病院が遠くなるため。子供たちが社会人になるまでは。

子供の学校の都合、生活環境が不安

新しい場所で就職して、結婚もしました。

孫の学校のため。

問5 帰町について「戻らない」と答えた理由(記述内容 その6)

⑧子どもが戻らないため

子供たちは帰らないから設備その他これから何年先か？

息子たち家族が戻らないため。孫も2年先は小学生になり、早く新しい場所を探し、楽しみにしている学校生活を送ってもらいたいと思っている。私たちが戻っても意味がない。他県で現在も離れ離れになっているのに、これから一生離れ離れということは考えられない。時は待ってくれません。自分たちでこれからの生活設計を考えていかなければいけません。孫たちも津波から危機一髪逃れているため浪江町に戻ることは考えられない。早く自分の家に家族みんなで住みたいと切に思います。

子供のことを考えていますか？住めると思えますか？小高区さえいまだに住めないのに。子供のことを考えて戻るともありません。

子供たちが戻らないから。子供が戻らない町には未来がないから。

⑨健康、病院の関係

病気が見つかったため、南方面(いわき市)で病院がある場所をお願いします。生命がいつまであるかわからないからです。

病気になり通院しているので、病院が近くないと生活できない。

76歳で病院の近くでよいと思います。

障害のある身として、家族と同居が必須。娘家族の将来を考慮するに(汚染された土地での生活は困難)戻らない。障がい者が自立生活できる場をと望むが希望は無理、困難なため。

主人が病気で寝たきりの状態になり、浪江で生活するのは困難になってきたため。二本松付近で暮らすことを考えています。

⑩津波への不安

海側には帰りたくない。

今後の津波が心配。友人、知人などばらばらになったなど。

防波堤のすぐ西側なので怖いので自宅に戻るは無理。高台の復興住宅については若者が(家族も含めて)戻らない状態では住めるとは考えていない。家族で住みたいので波が届かないところで前のように住みたい。

前の所は津波に流されあまりいい思い出がなく、高い所に移っても、またないとは限らないため。

⑪同じ場所に家を建てられないため

同じ場所に家を建てることは不可能と思われるため

同じ場所に家を建てるのが無理だと思う。医療機関及び買い物するところがないので不便です。

⑫その他

津波など亡くなった方がまだ見つからないのに、その土地などに住むということなど絶対できない。

現状を自分なりに判断すると帰町はあり得ない。浪江町民のことを本当に町が考えるのであれば浪江町を核の最終処分場にして、埋立て、地表にはメガソーラーをやるとか本気で考えてほしい。そうすれば土地のリース代を東電に頼らずとも安定した収入として半永久的に得ることができるし、他の場所へ町が移転したとしても、国や県の一時的のぎの復興よりも本当に町が自立できる復興ができると思う。今、国や県で進める復興は、インフラ等を整備したとしてもいづれ維持できなくなり、破たんし、国県の補助なしでは立ち行かなくなり、町がいつまでたっても自立できなくなる。

すべてに関して生活するのは無理があると思います。

津波で家が流されたため戻れません。

津波被災地だけでも大変なのに原子力発電所事故被害と二重の苦しみ。国は法律で決められている支援だけでなく、特例的に厚く支援することを考えるべきである。このままでは復興などは全く望めないのが現状です。

不便だから。浪江町に未練はありません。

超高齢者故に除染完了、廃炉整理が完了するのが確認できるが、低い現状では戻れる生活の環境の確立を求め得る生存の可能性は低く、希望なしとの私感によります。

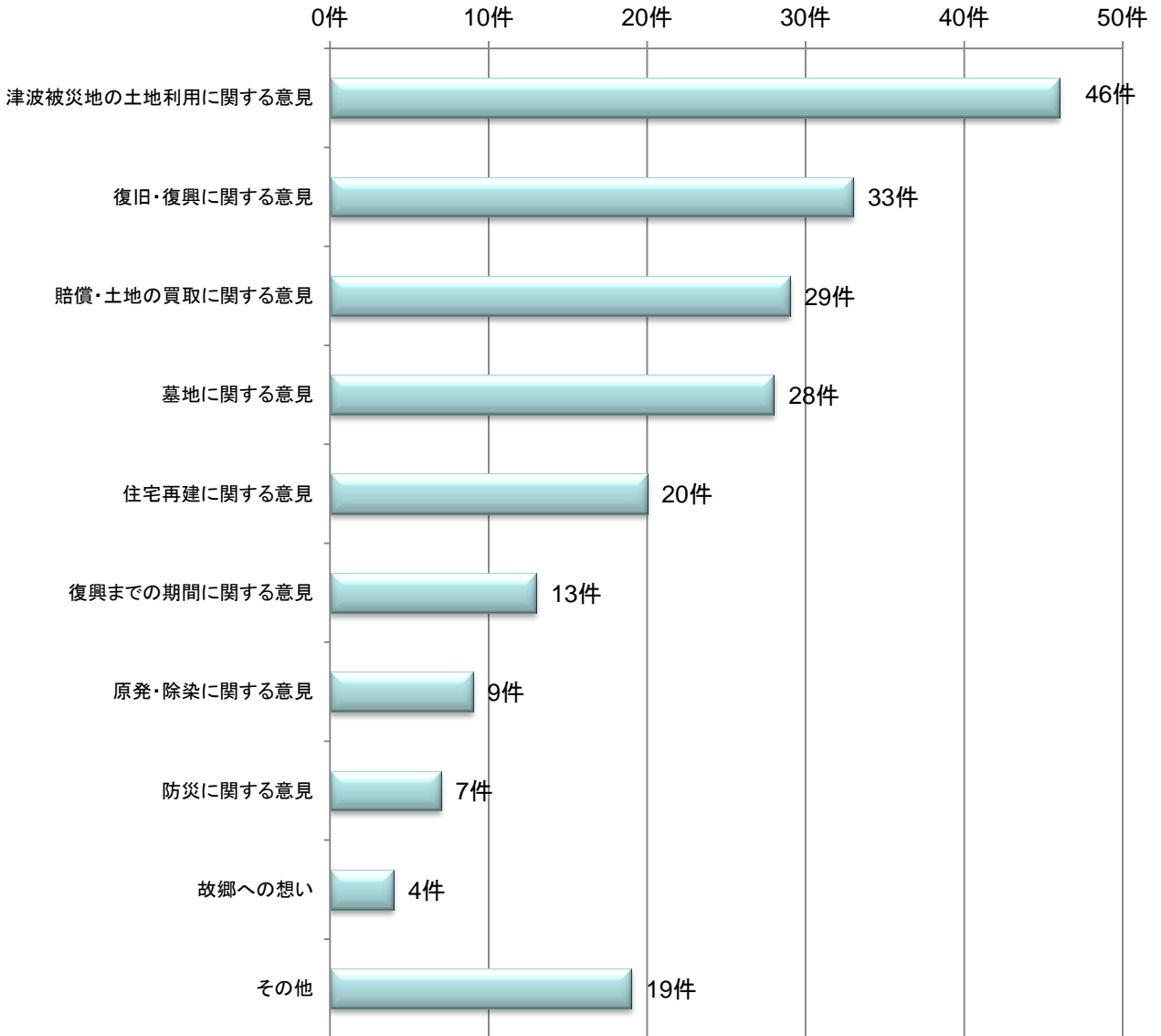
多くの方が亡くなった浪江町に戻れば、震災の日を思い出すので帰りたくない。子供たちのことを考えれば何もなくなった浪江町には帰りたくない。

早く戻れるように努力してください。

帰町可能になるまで30年くらい？そんなに何十年も待てないため。新しい家(一戸建て)を持つなら早く欲しいので、浪江(請戸)にはこだわらない気になってしまったため。

問5 津波被災地復興についての意見

■ 津波被災地の復興についての意見



問5 津波被災地復興についての意見(記述内容 その1)

①津波被災地の土地利用に関する意見

農地の復旧又は再生可能エネルギー基地とした土地利用についても示してほしい

早く災害危険区域に指定して用地買収をして欲しい。仮置き場等への用地提供については条件によりいつでも提供できる準備ができています。

売電事業をやりたいと考えている

何十年後、また津波被害が確実な土地で暮らすことは不可能であるとはわかっていても、故郷であり続けてほしいと願っている。したがって土地はいつまでも愛着を持てるように有効に活用してほしい。

両竹地区は、お墓が双葉町にあるので、自由に行き来できるようになればよいと思う。津波で居住はできない地区なので、再生可能エネルギー地区といわれても10m位の防波堤では3.11の津波は防げないと思う。大平山を防波堤として2次、3次の被害にあわない考えをもって安全な住居、再生可能エネルギー可能地帯にしてほしい。

請戸地区の土地は東京電力、国に買い上げてもらい、処分場に利用してもらってはどうか。私は以前の土地と建物と同等の再建できるくらいの補償額で応じることも可です。

土地利用のイメージ図はとても良い案だと思うが、それが現実になるまでに何年かかるか。5年は戻らないという町の方針。そのあとから復興に入るのでは、いつまでも落ち着いた生活ができないと思います。

請戸はサーフィンなど盛んだったように思うので、リゾート施設などもあって良いのでは。これはあくまでも原発はもちろんいろいろ条件がないことが一番の条件。

廃棄物の仮置き場に利用したらいいと思います。

中間貯蔵施設を浪江にももってきてはどうでしょうか？

問5でも答えたが、娘夫婦も請戸に戻って再建することに無理がある。港町で港が無ければ何を復興するのですか。汚染地区が周りにあってどうやって復興するのですか。今回の土地利用イメージに賛成です。みんなの想いで町としていろいろ利用してください。

風力、火力発電所。食べるものを作るのは無理でしょうから。

除染の土の置き場にする。

浜街道から東側の土地は再生エネルギーの基地とし、地元民が就労できるような形になればよいと思う。

早期の漁港整備。漁労、資材倉庫の建設(日照時間が長いので、ソーラーパネル等の設置)。冷凍、冷蔵庫等のバックヤードの整備。大手自動車のテストコース等整備して誘致する。田村市にデンソーの工場が来るからゴーカートのレース場とか。集まった人に対する海産物、農産物の直売所とか広大な土地を使用する施設。

浪江からは遠い九州にて生活しています。説明会にもほとんど参加することができず残念です。長年住み慣れた土地に再び住むことができなくなることは誠に残念ですが、せめて今後将来の防災の役に立つ土地となって活性化してもらえるなら、と考えます。家の再建さえも許されない津波被害者が住んでいた場所です。この無念が報われる活用をお願いいたします。

自分所有の土地はもう戻らないのですべてお任せしますので、津波被災地の復興に役立つのであれば有効に利用してもらいたい。

土地利用計画をできるだけ早めにすすめてほしい。(条件※ 徹底した除染とインフラが整備され次第ただちに帰町)

被災地を後世の為に有効利用していただきたい。

津波災害地として後世に残るモニュメントなどを含めた公園の設置と再生可能エネの発電所として利用してほしい。

除染をしても無駄だと思うし、中間・最終処分場に手をあげるべきではないですか？山も海もダメなんだから。無駄遣いをしないで住民へ分けるべきではないですか？もうそれぞれの土地で生活が始まっています。もう前を進んでいるのだから。期待を持たせるな！できないことはするな！はっきり言ってこんなアンケート見たくもない！！とてもイヤな気持ち！！

周辺から出た土を盛土して地盤をあげて廃棄物の貯蔵施設か焼却施設を作り雇用を増やす。

再び生活(居住)できない土地ならば被災前はどのような地域でどれくらいの人が住んで生活を営んでいたのかわかるような史跡を残したい。

1. 棚塩地区は住めないなので除染物の中間貯蔵所として利用すること。
2. 津波の被害の状況を早く整理して、堤防・防潮林を早く造成すること。
3. 防風林の植林することを夢見てる。

集団移転事業を計画しているようだが、汚染された以上は、今までの浪江町の在り方(観光や地場産業)では復興復活再生浪江は無理。津波被災地として町が住民(請戸・棚塩地区)の土地買い上げを実施するのであれば、土地所有者としては斬新かつ今の時代に沿った事業計画を強く望む。再生エネルギー、自然エネルギーも良いとは思いますが、誰もが来なくなる、再度訪れたいような場所(観光目的地でもいいと思う)。日本有数の地となれるような土地利用を希望します。

防災緑地ゾーン等となっているようですが、緑地を目的とした公園となるのでしょうか。ありふれた公園ではなく、斬新さが大切だと思います。港町として日本全国の港町を参考されることを望んでいます。

問5 津波被災地復興についての意見(記述内容 その2)

①津波被災地の土地利用に関する意見

先日の住民説明会に今回の土地利用のイメージの説明など詳しい説明がほしかった。毎度のことながら方向性がよく見えない。復興に関しては被害のあった土地の有効利用と早期の復興住宅の建設、請戸地区の墓地整備を進めていただきたいと考えます。

前回のアンケートにも答えたように、請戸の土地は美しい場所であってほしいです。海の中か砂の中かわかりませんが、その土地に亡くなっている人がいっぱいいるからです。

- ・浪江町は日照時間が冬でも多いので、太陽光発電を考えたらと思います。
- ・荒井地区のお墓も津波で流失しましたが、移転先は菩提寺の大聖寺の近くが良いと思います。

廃棄物処理場に利用したほうがよい。

除染廃棄物の仮置き場。震災記念公園。

災害のない土地の子々孫々への継承と工場誘致等による雇用の確保を重視した土地利用。

所有している農地を再生エネルギーに利用して欲しい。

全ての土地、建物を工場の誘致や震災記念、新しいエネルギー開発に使用していただきたい。

原発の廃炉については30年以上かかるとされており、棚塩は8～10キロ圏内にあり、農地としての利用での風評被害は免れず、生活再建については、相当厳しいものと思われる。したがって、復興については、土地利用のイメージにあります、再生可能エネルギー(太陽光発電)や工場誘致等が適切かと思われます。いずれにしても、今後の生活再建のため津波被災地については全て、国による買取を希望したい。

線量の問題がなければ、800～900年に1度の津波に備える必要は特にないと思うので、3.11以前のままで居住させて欲しいと答えます。今は線量があるので、戻る人も少ないと思えるので、メガソーラー発電や風力等、原発以外の再生可能エネルギーの集積地にして欲しい。

再生可能エネルギー(太陽光発電)を設置していく。

請戸、幾世橋など津波がきた場所に風力発電、太陽光発電など自然エネルギー発電所を作る。

工場の誘致等のほかに町外、県外からも人がたくさん来てもらえるような観光施設ができれば人の流れが活発になり、町自体も復興していくと思います。

土地を有効に使ってほしい。

山も土地もすっきり除染して、防波堤のほかに松並木にして公園をつくり、雑木等も植え花壇も作る。

原発に替わる再生エネルギーに力を入れてほしい。戻った場合、安心して生活できる環境を整えてほしい。

土地利用のイメージ(案)がいいと思う。賠償をきちんとしてほしい。津波後の事故ではあるが責任は重い。

②復旧・復興に関する意見

町民の意見を聞くのはほどほどにして、町政からの提案(現実的な)を示す時期ではないか。

ほとんど復興が進んでいません。原発事故も風化しつつあります。被災者に対しても原発からお金をもらっているなど厳しい見方をする人もいます。私たちもどのような状況になれば落ち着いた気持ちでできるのかわかりません。請戸地区は家屋も流され、新天地へも積極的に進めずにいるのが現状です。どのような状況をもって復興なのか私たちにわかりません。新政権に若干期待しています。

病院、食糧、衣類の商店は近くに設置してほしい。

今の復興はぜんぜん進んでいませんが、目で見える形をお願いします。

電気、上下水道、道路など地区のインフラ整備はもちろんだが高速道路、鉄道の南北通行可や店、医療機関が揃い、相当数の世帯が帰町できなければ戻れないので、国又は東電への大規模な財政支援を求めるべきである。すくなくとも1km規模の団地を形成すべき(賠償等も含む)。

一日も早く復興してもらいたい。

企業立地、集団営農、ライフラインの整備を早急に行う。国立病院の建設等。

復興を望んでいますが、なかなか厳しい問題ですね。ひとつひとつ問題を解決し、あきらめないで頑張ってください。

一日も早く故郷に戻りたいです。いろいろ課題はあると思いますが、早急に復興を進めてください。

岩手、宮城の沿岸なら復興も可能だが、原発から10km圏内津波被災地の復興は非常に厳しいのではないかと。

生活に支障がない環境ができていれば帰りたい。早急にしてもらいたい。

問5 津波被災地復興についての意見(記述内容 その3)

②復旧・復興に関する意見

津波被災地の復興は何もしないのが復興。世界中見回しても、これほど海岸に消波ブロックとコンクリートの防波堤がある日本は異常。二重防波堤など税金の無駄遣いそのもの。何もしなければ数百年後には白砂、青松の美しい海岸になるでしょう。漁港も改修する必要なし。阿武隈山地の全域と全河川を除染しないことには浜通りの魚は食べれない。

双葉郡8町村の協力心があまりにもなく、復興が遅れていると思う。

まず除染。インフラの整備、堤防整備、宅地の整備、道路の整備など早く進めること。

二度ほど帰町しましたが、いまだに3.11のままの現状を見て苦しくなりますが、ガレキや雑草が片付くと少しは前へ進んでいけるのではないのでしょうか。

復興で住宅ができたとしても、町民の人口が2万人以上、その世帯数を住むということがいろいろな面で大変なこと。まずは土地面積。一番心配は上川から流れてくる水、インフラ、商店、生活に必要なとされる医院、まずそのようなことが整うまでは8～10年はかかると思う。

一日も早い復興をお願いします。

早期の復興を願っています。

現在提起されている案の方向でよいのではないかと思う。

これからの復興、賠償をちゃんと説明。

帰れない場所は国の復興する計画に協力したいです。

津波地区での復興は進んでいない。早く復興して欲しい。

5年以内で復旧・復興・災害復旧住宅、土地が問題かな。請戸地区には人々は住めない状態で困難だ。無理かな。

津波被災地の復興は十分可能と思います。しかし除染、原発の廃炉等は不可能ではないのでしょうか。できることにお金をかけるべきできないことにお金をかけるのは無駄だと思います。

以下の点について、町の復興計画に盛り込まれていないため検討されたい。

1. 南工業団地用地を高台集団移転地区として転用措置を図り、周辺整備を含めての土地利用
2. 永田地区の高瀬川の旧河川敷跡地及び6号国道周辺を含めての整備計画

港の復旧

一日でも早く国、県、町としての将来が見えるビジョンを示してもらいたい。そうなれば、先々が見えて日々の生活が明るくなるのではないか。現時点では前が見えず、日々の生活を送っているだけで何の生きがいも見いだせない。

1. 復興が進むように、決まらない中間貯蔵施設建設の誘致や焼却施設の推進を希望します。
2. 再生可能エネルギー(太陽光発電、風力発電)の建設の推進を希望します。

請戸川河口の線量を具体的に調査し、どれくらいの汚染があり、どの程度で生活レベルまで下がるのか知りたい。原発に対して再生可能エネルギーの基地とするか、中間貯蔵施設でもよい。漁港の再生は不可能に近いと思いますが。

集団移転場所への学校整備等、住みやすい町づくりをお願いしたい。(他の人が住んだみたいと思う町づくり)

港の整備。

③賠償・土地の買収に関する意見

町は東電に対して津波被害を受けた人々に対して、建物がないから駄目だということはなくしてほしい。建物があろうがなかろうが、東電からの被害は変わらないし、住めなくなったのは東電なのだから。

家屋・家財・土地は評価額で買い取ってほしい。

賠償を早く決めてほしい。

用地取得費、住宅建築費として東電の賠償と被災地を早く買い上げてほしい。

浜街道から東は宅地以外も適正価格で買い上げるようにすること。

一日でも早く被災地の買上げをお願いします。

元の場に住めないならば早く土地を何とかしてほしい。

早く土地を買上げてもらいたい。新住居地を求めるための資金が必要であるため。

問5 津波被災地復興についての意見(記述内容 その4)

③賠償・土地の買収に関する意見

災害危険区域の指定、移転促進区域の指定を受け、宅地の買収を進めていただきたい。農地の利用、農作物の耕作は無理で、エネルギー産業の利用地として進めてほしい。

今現時点では浪江町には戻らないつもりでいるので、土地の買収を早急に進めてもらいたい。また、お墓についても土地の整備をしていただきたいと思います。

町が被災した宅地を買い取りしてほしい。

復興の前に汚染された資産の賠償が先であると思う。戻らない理由で記したようにプラントが爆発した状況であり、核物質が今後30～40年かけて除去するようであるので復興の話はそのあとでなければ論外であると思う。イメージの図を見ると事故前に住んでいた人が書いたものとは思いません。非常に心外である。

土地の買上げ価格についても、後の生活に変化が出てくると思います。家(上物)がない分、東電からの補償もなく、今後の生活のためにも買上げ価格等も早く示してほしいと思います。

帰らない町の復興よりも東京電力及び国、県からの賠償をちゃんとしてほしいのですがどうなっているのでしょうか。

現物の賠償をキチンとしてもらいたい。

住宅2階部分は浸水もなく、汚染もなかったのに役場から何の連絡もなく取り壊されてしまった。家具等は取り出せずそのまま解体された。家具には地震保険をかけていたのに査定ができず保険金が下りない。役場としてはまず謝罪し、弁済するのが先だろう。集団移転から復興やらはその次だろう。また、個々に新築相応の金銭を支払う方が一番よいと思う。再び浪江町に戻る人も戻らない人も、個人の生活の選択肢が異なるためその方が一番良い。

買上げる土地はどこなのか知りたい。

土地の買収をしてほしい。

宅地・農地の補償や賠償を均一にしてもらいたい。また、国に買上げてもらいたいです。

土地、建物を早期に買収の方針を決定し、墓に関しては中浜、両竹は双葉町にある家が多く、早く協議してほしい。

もとに戻らないときは、家屋の土地はどうなるのか。代替えしてもらえるのか。

もう住めないで早く買上げてもらいたい。

元の場所に家を建てることのできないのであれば、請戸・棚塩・中浜・両竹地区の住民は戻る場所がないのでみんな戻らないと思う。従って土地は買い取ってもらい、有効活用してもらおうのが良いと思う。

津波被災地の買上げを一日でも早く進めていただきたい。

居住制限区域の農地についても地盤沈下して自力で復興が困難なところは買上げもしくは借上げて有効な活用を図ってほしい。共有財産の取り扱いについて、相談をするところを設置してほしい。

新しい場所での生活を成り立たせていただきたい為に土地、家屋、精神的な賠償を十分にさせていただきたい。現在の土地等は爽籟的に有効な活用をしていただきたい為に提供したいと考えております(中間貯蔵施設等)。

1. 津波被害にあった所の土地を高く買ってほしい。

2. 帰町するには安定した生活再建を図るため、働く職場が必要である。

3. 帰町は高齢者が多くなると思われるので、防災緑地ゾーン周辺にパークゴルフ、グランドゴルフ等の高齢者向けのニュースポーツ施設を整備してほしい。

農地を持っているので借地料が入ってくるようにしてほしい。家が流されているため、賠償に差が出るため、家の賠償と家財の賠償を半分でもいただけるようにしてほしい。

町の中の復興ができていないので帰るなど考えられない。

④墓地に関する意見

請戸共同墓地の公園化と早期復旧。帰町は考えていないが、将来的にも我が家の墓地は請戸に残し、死んだらそこに戻って入りたい。

共同墓地、だいたい何年後なのか知りたいです。主人の骨もお寺に預けたままで先が心配です。

墓地の整備を早急をお願いします。

一日でも早い復興ができなければ戻れなくなります。共同墓地は今のところよい。

一日も早い復興を期待いたします。また墓地の早い設置を望みます。

問5 津波被災地復興についての意見(記述内容 その5)

④墓地に関する意見

お墓がどうなっていくのかが今は心配です。

早く土地を買上げて家のローンを支払いたいです。お墓は今の場所を整備して公園にして、地区の人たちがお墓参りの時に会えるような場所にしてほしいです。

請戸の墓の現状回復を望む。大平山での墓はこれからのこと。先祖の墓を大事にしましょう。

1日も早くなくなった人たちの慰霊碑の設置と墓地の移転をしてほしい。浪江町全体が活気づかない以上、不安が多く、ライフラインを先に進めることが大事だと思う！！

墓地についても区画整備や他の場所への移動について計画実施してほしい。

危険居住区域として整備してほしいです。そして津波被害者の慰霊碑を建ててください。お墓も移転などを含めて良い方向に考えてほしいです。

先祖の墓地は早く復興してもらいたい。私たちの一時帰宅はお墓参りだけです。一時帰宅するたびに3.11が思い出され悲しい。さみしい気持ちでいっぱいになります。

請戸の墓地がなくなりました。墓地も復興の計画の中に入れて考えてください。

墓エリアについては公園墓地にして、大平山あたりに作ってほしい。

墓地の早期再建を希望します。

早く墓地を作ってほしい。

請戸地区の共同墓地建設を早急にお願いしたい

復興で役に立てることがありましたときには声をかけてください(お墓のことだけは早くお願いします)。

大平山への居住ではなく、大平山への共同墓地ではどうでしょうか。高台からご先祖様に請戸地区を見守っていただきたい。平地に共同墓地ではまた津波が来た時に同じ状態になってしまう。墓石がどこに流されるかわからない状態になる可能性が大である。とても不安である。いつ帰れるかわからないため、せめてお墓をどうにかしたい。まずやれるところから、一歩ずつ進めていただきたいと願っています。安心してお墓参りに行くことができる。今の状態ではどこに何があるのかわからない状態です。

大平山の共同墓地賛成です。

共同墓地を大平山高台に移動させるとありますが、請戸の自分の墓には骨がそのままになっています。この件についても考えてほしいです。

お墓、慰霊碑を早く整備してほしい。

お墓を無償で直してほしい。もう、元の場所と同じ住所(小字)には居住できないとのことなので、何かシンボリックな物があれば、将来請戸に行くかもしれません。

義母の遺骨を早く土にかえてやりたいので、お墓の整備を早くしてほしいです。請戸には帰りたいですけども孫たちとも離れたくないです。

⑤住宅再建に関する意見

災害公営住宅では家賃を払って住んだとしても、やがて住民が死んだら家には子供や孫たちが浪江に一生戻ってこないと思います。将来のことを考えると代替地に一戸建てを建てるようにしないと若い人たちが戻らなくなってしまいます。

請戸漁港の復旧を求める声があるが、大きな負担であり小さな復興は無駄！ 集団移転の要望があるとのことだが大字地区(総会)での合意形成はいまだなされていない。災害救助法、建築基準法等の法にのっとり、地区住民や町・県との要望による施行であるとするなら、大字総会での合意があって初めて適用される移転事業であるはず。このアンケートでは決定できない。

津波被災地の土地は現状のまま残していただきたい。200年後の子孫のために残すつもりです。よって「防災集団移転事業」のための土地買い上げはしてもらわなくて結構！

元の場所には家等は建てられないし、浪江町が以前のようなようになるまでは動けない。

一日も早く復興住宅をつくってください。

津波で家は流され、今はガレキで山のような状態です。災害公営住宅に入るのに家賃負担が必要なのは問題である。

元の住居のローンが終わって新しく家を建てなかったら復興しない。まずは今の仕事を続けてローンを返すしかない。

集団住宅、アパート類の住家ばかりでなく個人の意思で自由に住居が求められるようにも力を注ぐべし。

問5 津波被災地復興についての意見(記述内容 その6)

⑤住宅再建に関する意見

現在、農業機械等の二重ローンにならないための措置は国でとっているようだが、浪江町のように原子力被害による人はほとんど該当しない。土地がないので新たに機会を買う人がいないためだ。しかし、ローンが残っている人は大勢いるので、二重ローンにならなくても、ローンがなくなるような対策をしてほしい。私たちはどうせ戻れないのだから、津波被災地の復興などと言われてもピンとこない。前に述べたように、最終処分場やメガソーラー等利用する側で必要だというのならやればいいのか。復興予算が無駄に使われて本当に復興したいと願っている。町民には全く届かず、増税や国の借金として町民一人一人につけが回っているのが現状です。誰のための復興なのでしょう。一部の企業や政治家、役人のための無駄遣いになっていませんか。

請戸部落を二重防波堤の後ろに造ってください。その時には帰ります。

どこに住んだらいいのかいつも悩んでいます。答えが出ません。

新しい場所での生活をするにあたり、これまで生活してきた地域の方々と一緒に生活したいと考えていますので、やはり請戸地区の方々と一緒に一緒に移転を希望します。集合住宅よりも一戸建てを希望します。今すぐ自分では立てられないので、計画的にはいずれ自分の家を地域内に建てられたらいいと考えています。(後継者に希望している)

①早く復興住宅を立ててください。南相馬市を希望します。

②聞いている説明が毎回同じことばかりですから、請戸のことも聞くだけで実がないように思います。

仮に復興住宅、戸建てでもずっと家賃を払って、子・孫の代までとは考えにくい。今の住宅、土地(浪江の)を買ってもらって、原資として家族みんなで暮らせる住宅を求めたい。

災害住宅の建設プランがあるが、5年後入居できるのか不安である。いわき市内の浪江町災害住宅の建設はないのですか。

震災後、世帯分離し1人世帯です。91歳と高齢のため一人で移転先に住むことは無理だと思っています。浪江(田尻)に在住していた娘と同居しています。帰町できるとしても娘と同居になりますので集団移転地への居住は考えておりません。

気候の似ているいわき地区に住みたい(交通の便も含む)。終の住かと考えている人間にとって、一戸建て連棟でもよいので動物と一緒に住める区域も考慮してほしいです。いまさら犬を手放せません。雇用のことも考え町営でデイサービス、ワンコインの風呂、食堂よって店など運営、地産地消で生涯現役で復興のモデル地区になり、今まで応援して下さった世界中、日本中の皆様に浪江町の底力を見ていただくのも良いのでは。運営方法は日本中の皆様の知恵をお願いしましょ！ 跡地は町のお役にたてれば幸いです。

一日も早くもとの生活に戻れるようにお願いしたいと思います。仮設住宅ではとても自由に体を置く場所がありません。つらいです。世帯主が病につき、一戸建てに住みたいと考えておりますが、土地を求め小さな家でも大変なことです。このような場合、国・県からの交付金は受けられるのでしょうか。

新しい地域や新しい人間関係の形成に時間もかかるし、将来的な不安もあるため、家族全員が安心して住める住宅、みんなとコミュニケーションもとれる浪江町の公営住宅の整備を早急にお願います。早急にお願います。

⑥復興までの期間に関する意見

復興までの期間がカギ。あと5年程度で復興住宅に入居できる環境が整えば気持ちが維持できる。

口で言う被災地復興は簡単ですが、実現には相当年数がかかるため戻るのがあきらめました。父母が眠る請戸には墓参します。ふるさとを捨てるつもりはありません。生活基盤が変わるだけです。

10年もかかっていたのでは、明日のこともわからないのに、今決めてもその時にはどうかわかる人はいないと思います。ここ2~3年のことだあったら、何とか返事ができると思いますが。

水産の仕事があれば。早く放射能セシウム、ホットスポットが無くなれば帰ってもいいが。あと何年かかるかわからないし、10年経ったらもう年齢のこともあり無理です。

①高齢のため何年先になるかわからない帰町を待ってられない。

②放射能の心配の少ない土地で生活を再建したい。

避難生活して2年目の正月。現在桑折町の仮設に90歳になる母親と二人でおります。親のことを考えるとあせりもあり、一日も早く浪江町に帰りたい。

問5 津波被災地復興についての意見(記述内容 その7)

⑥復興までの期間に関する意見
早く早く。 集団移転は早くていつごろなのか。あまり遅れると、他の場所に移転も考えなければなりません。浪江町内に病院、商店が戻るのか。
復興に向けて、住んでいた人達が時間がかかりすぎて諦めてしまわないようにスピードアップが必要だと思う。 2年後で帰宅できることを期待しておりました。除染等で時間がかかることが否めないと思っておりましたが、そう若くない私どもは一日も早くふるさとに戻ることを希望しています。
4年から5年で帰省できれば浪江には戻らない。 目的がはっきりしない。計画作成が遅い。 3年以内に町の方針が実行できれば方向性が変わるかもしれませんが。早期の復興再建を願っております。
⑦原発・除染に関する意見
東電が更地になるまで何百年かかるのかわかりませんが。しかし、皆さん原発の恐ろしさわからないんですね。核兵器があんなにいっぱい不安な状態で住まいの10~20キロ圏内にあるんですよ。万が一何かあったら東日本全滅ですよ。いや日本全滅ですよ。
津波被災地だけなら復興も前向きに考えられるが、放射線量となると復興は私の代でできるのか、私の代でできるところで再開したい。東電に何か起きた時のことを考えると不安です。 原発がそばにある危険性。子供がいるため。新しい場所に慣れた。 浪江町については津波被災地の復興というより原発事故からの復興の方が大事なのではないでしょうか。 事故収束宣言後も安全が確保されず、放射能も請戸地区は低くなっていますが、山の方はすごく高いのに、雨が降ったら請戸の方に向かってくでしょ？除染しても繰り返しで人間の住む土地にはならないと思いますが。若い人は学校、会社と現在の土地に慣れてしまったら帰らないと思う。老人だけでは生活にならないと思う。放射能を甘く考えない方がいいと思う。簡単には消えないと思う。 【追伸】 復興住宅も部屋の間取りを広くしていただきたい。四畳半なんて人間の住む部屋じゃない。最後に皆様お体には十分気を付けて復興の方よろしく願います。
1. 放射能の完全除去 2. 土地の買い上げについて 3. 住宅建設につき経済の補助 4. 医療、国保の充実
子供たちの通っていた小学校の校庭にガレキがたくさんあって、子どもたちが将来見に行ったときがっかりしそうなので、早く違う場所に片付けてほしい。
⑧防災に関する意見
元通りとはいかないだろうが、災害に強いように基盤整備をしていただきたい。今の世代だけでは終わりではありません。今後、地震や津波だけの災害ではない。防災については何十年と続くのであろうから。
防波堤・防潮堤の早期完成と除染です。 安全性に考えた避難道路を多くする。片側三車線を確保。原子力に変わるメガソーラー。何事にも平等にしていきたい。 数百年に一度の確立の津波に対して、自然の景色を壊し、美観を損ねるような高い防潮堤は不要である。それより避難道路・避難場所の整備に重点を置いてほしい。 津波被災は土地の整備、津波対策の堤防整備が必要。 防波堤を高くする。 防潮堤は私どもの浜辺のような法面では、波の乗り方、進入の力が強いと思います。上部に何がしのR(カーブ)を付けることにより、進入の波の強さを上部方向に進めるため陸地を荒らす度合いも少なくなると思います。なお、二段構えならば更に強固なものになると思い、先の防波堤では砂は飛んでくるし、相当苦しめられた。 私は現在91歳を過ぎております。体の不安定で、ふらつきで高い所に上るのに大変困難です。妻も80歳を過ぎ、歩き方も思うようにできません。高い所に上るの大変です。災害公営住宅の一戸建てを出来得る限り希望します。

問5 津波被災地復興についての意見(記述内容 その8)

⑨故郷への想い

請戸は好きな海、山、川そんなところで育ちました。そして都合があり、就労、そしてUターン故郷に16年前に帰ってきました。そして災害にあいました。ふっと思うと仮設に入っていることが信じられない悪夢です。国の人たちに頑張っていただいて復興してください。ここに住んで生活しているうちに高齢者になります。元気なうち復興した後に好きな海、故郷、見に行きたいと思っています。大平山に墓が移動するのであれば、お墓参りにも行きたいです。

故郷はなつかしいので復興して自由にいかれるようになったら一日も早く行ってみたい。

イメージ図の中で、自宅があった場所に何か目印を作ってもらえれば記憶の中で忘れることがないと思うのでお願いしたい。

請戸は今でも懐かしく、思い出しては涙する日も度々です。どこかに請戸の元の面影を残してほしいと思います。

⑩その他

請戸へ戻るつもりはないけれど、今まで住んでいた家・土地はどうなるのか。私は家を建てて7年で津波の被害を受けました。車も失いました。その辺を早急をお願いします。

今は県外にいますが、情報だけは教えてほしい。

仕事がないと戻ることはできません。

津波により流された貴重品が警察に具体的に言っても、名前が書いていないからといって返還されない。また、撤去にあたって町民の意見を聞いてからにしろ！アンケートは何時も形式的ですべて決まってから送るな。※ 中州で水害にあいやすい場所に移転させる気ですか。

※ 毎回一時立入をしている人たちを優先的に帰すべき。安全で帰るのだから。津波により家のない人たちを整備もされていない所に補償もなく先に帰還させるのか。

津波だけだったら町は存続できたと思うし、家も棚塩に作ることができ、まがりなりにも生活が落ち着いたと思う。今まだ何も始まっていない状態で考えても心配しても前に進まず、欲を言えば補償金より昔の穏やかなふるさとが欲しいだけです。皆様ご苦労様です。来年も頑張ってください。

できる限りお願いします。

津波被害の直後の様子が全く分からない。今はガレキが整備され、整備前の写真等がなく、納得できないのが現状。災害居住制限区域だと思うため、土地に関しての情報を詳細に決定してほしい。

私は福島県の南矢野目にはいますが、年も76歳で病気もあるので、これからどうして生きていけるのか感じます。いっそ死んだのも良いのかと。世の中に生きて良くない現在です。また、これからの若い人たちはもっと大変だと思っています。

早く方向性を決めたいのでよろしくをお願いします。

各町村人口減で税収減が予測されるなか、なぜ8ヶ町村が統一してこれからの対策ができないのか理解できない。

県外に避難をしている人たちのケアをもっとしてほしい。

夫婦ともに83歳を越えました。丈夫であれば静かな場所で暮らしたい。好きなことをして。

今まで津波の被災のことは話はない。

棚塩地区においては、最初の定着地の高台、菩提地に生活地とし、低地を生産地とし、組合組織化により産業復興にあたる。それには農協活動に徹する。かつての満州国農産物の農協活動を範とすべきです。現在の米作にそれが見られます。年寄りの冷や水的な発言ですが、旧満州国創設時の農業合作に若い力を貢献した覚えがあるため敢えて提案いたします。

なるべく元の場所に住みたいから

災害危険区域から個人で見つけた移転先に住宅を再建する場合の「がけ地近接等危険住宅移転事業」を活用して補助を受けることができるように早く話を進めていただきたい。

自民党安倍政権が変わって復興や原子力発電所に対する政策や政府の考え方が後退した。これは我々にとって不安材料が増えたように感じる。安倍首相の政策が浪江町に戻ることへの大きなハードルになっているし、マイナスイメージが強い。今後の対応に期待したいが。

復興計画の説明会が中通りの方ではありましたが、冬は雪のためどうしても参加できません。浜通りでも開いてほしかったです。